

IV リスク判定・分析

1. リスクの判定条件

【運動器の機能低下】下記の設問で3問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問2 (1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2 (2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2 (3)	15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
問2 (5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

【転倒リスク】下記の設問で、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

【閉じこもり傾向】下記の設問で、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問2 (6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

【口腔機能の低下】下記の設問で2問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ
問3 (3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい 2. いいえ
問3 (4)	口の渇きが気になりますか	1. はい 2. いいえ

【低栄養の傾向】下記の設問で、BMIが18.5以下となり、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問3 (1)	身長・体重	身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 以下の場合、低栄養が疑われる
問3 (7)	6 か月間で2~3Kg以上の体重減少がありましたか	1. はい 2. いいえ

【IADL】下記の設問で、5点満点中、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価します。

設問番号	設問内容	選択肢	配点
問4 (4)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない	1点 1点 0点
問4 (5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない	1点 1点 0点
問4 (6)	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない	1点 1点 0点
問4 (7)	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない	1点 1点 0点
問4 (8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない	1点 1点 0点

【うつ傾向】下記の設問で1問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	選択肢
問8 (3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
問8 (4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

【認知機能の低下】下記の設問で、3点満点中、3点を「高い」、2点を「やや低い」、1点以下を「低い」として評価します。

設問番号	設問内容	選択肢	配点
問4 (1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点
問4 (2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	1. はい 2. いいえ	0点 1点
問4 (3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい 2. いいえ	1点 0点

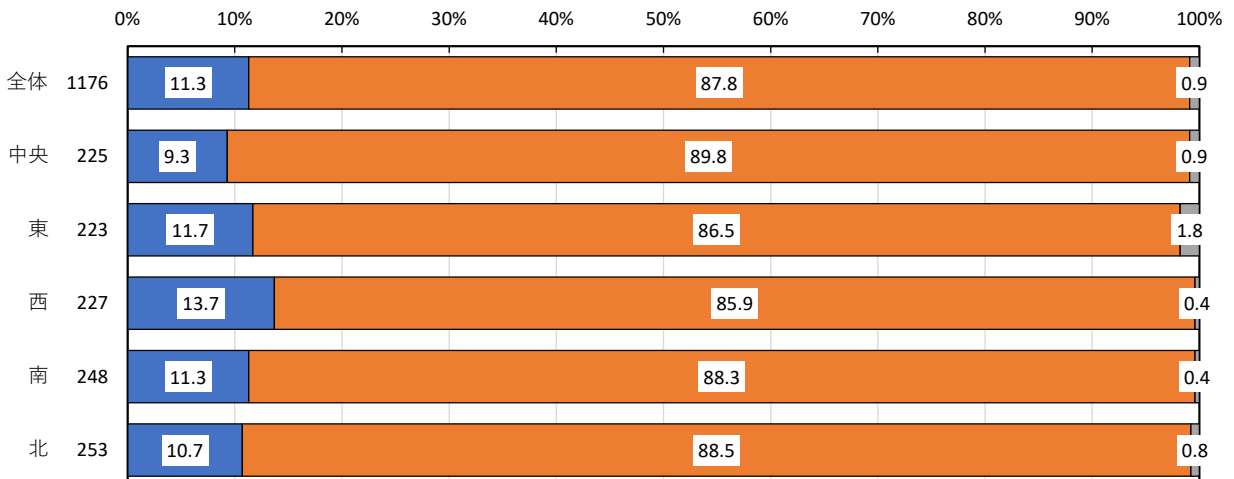
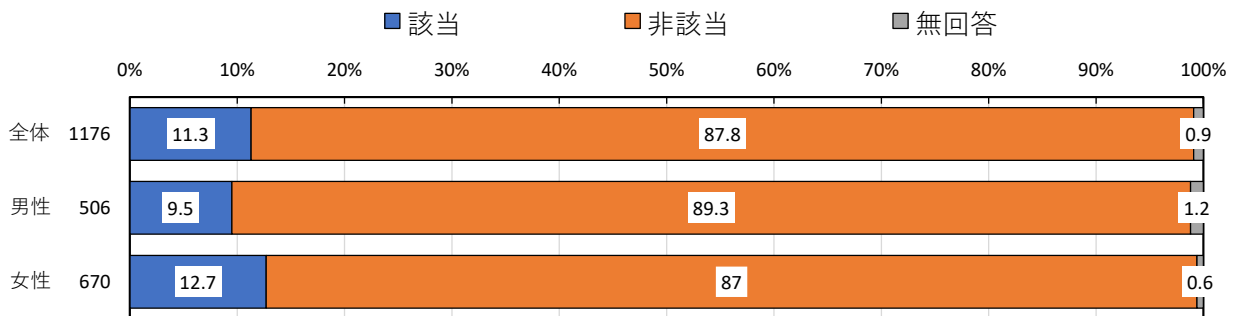
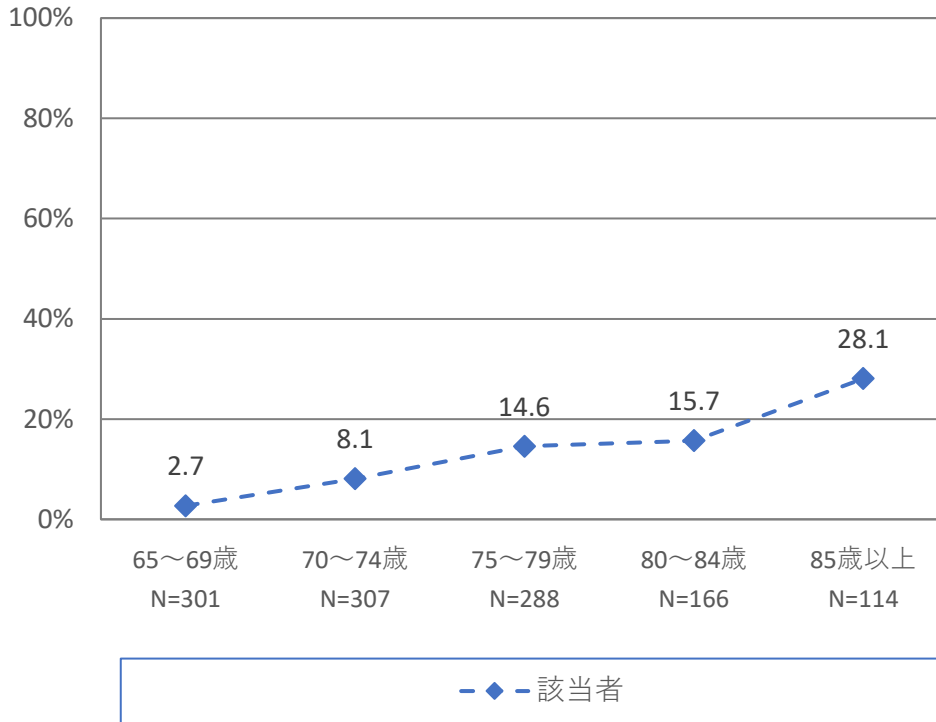
2. リスク判定分析

(1) 運動器の機能低下（一般高齢者）

年齢で見ると、年齢が上がるにつれて「該当者」の割合が高くなった。

性別で見ると、男性より女性で「該当者」の割合がやや高かった。

圏域別で見ると、西圏域では他の圏域と比べて「該当者」の割合がやや高かった。

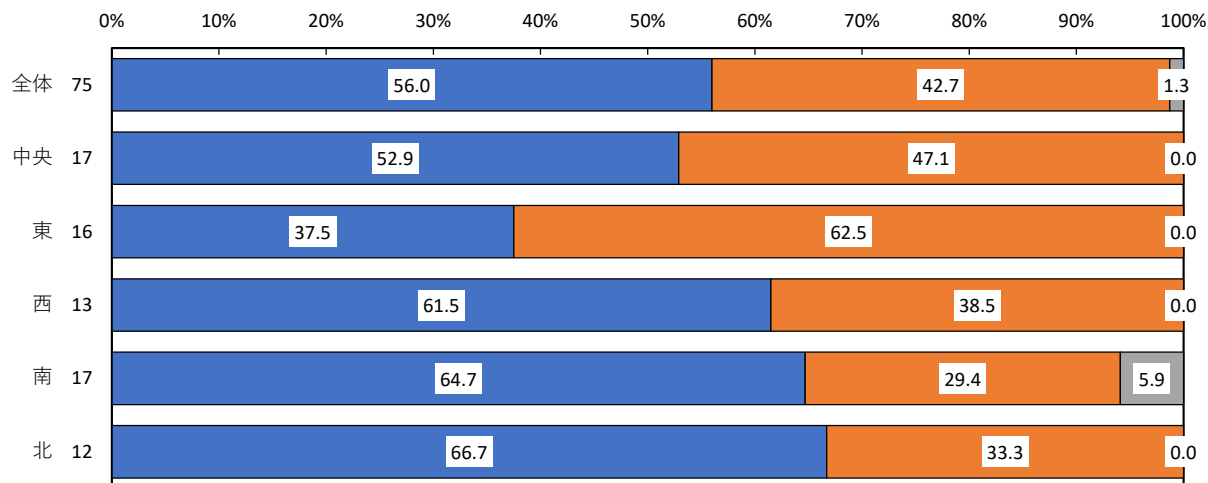
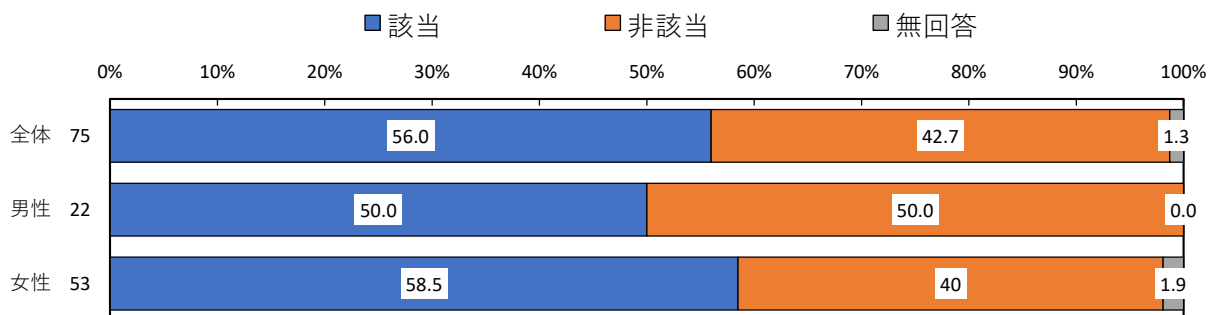
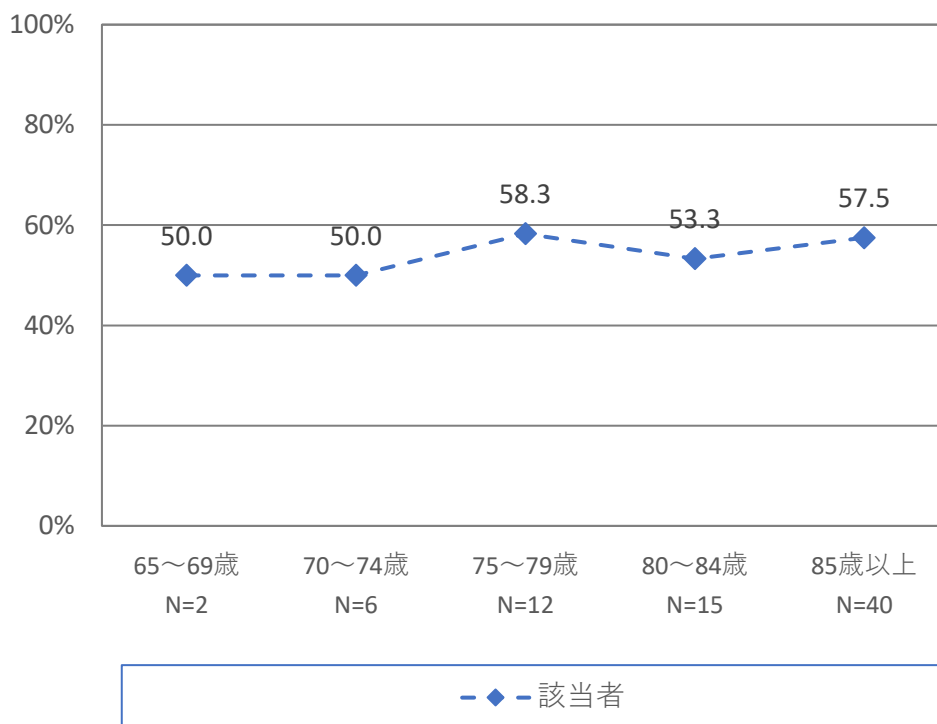


(1) 運動器の機能低下（要支援認定者）

年齢で見ると、75歳未満では「該当者」が50.0%だが、75歳以上ではいずれも半数を上回った。

性別で見ると、男性より女性で「該当者」の割合がやや高かった。

圏域別で見ると、南圏域や北圏域で他の圏域より「該当者」の割合が高かった。

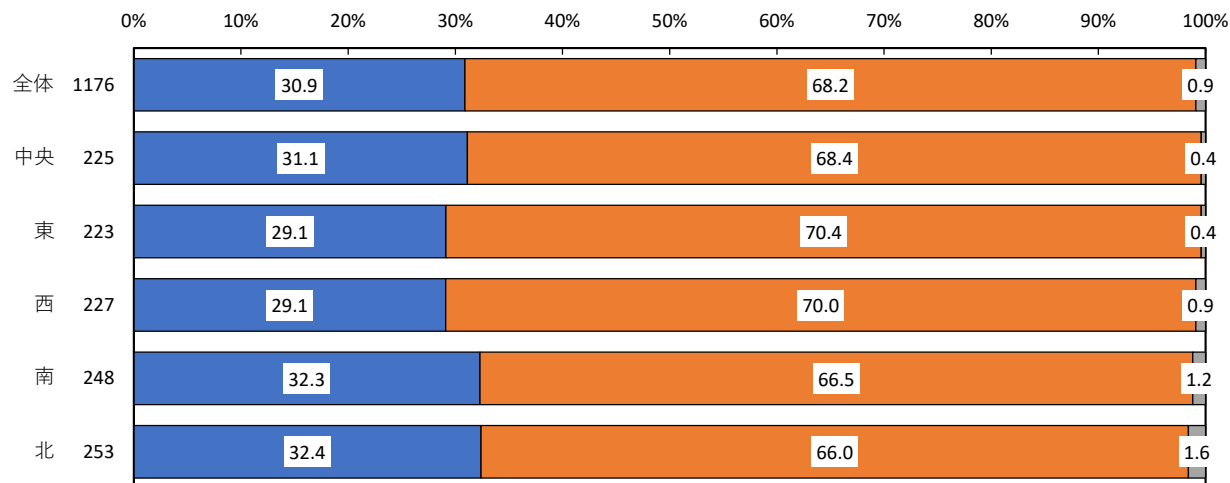
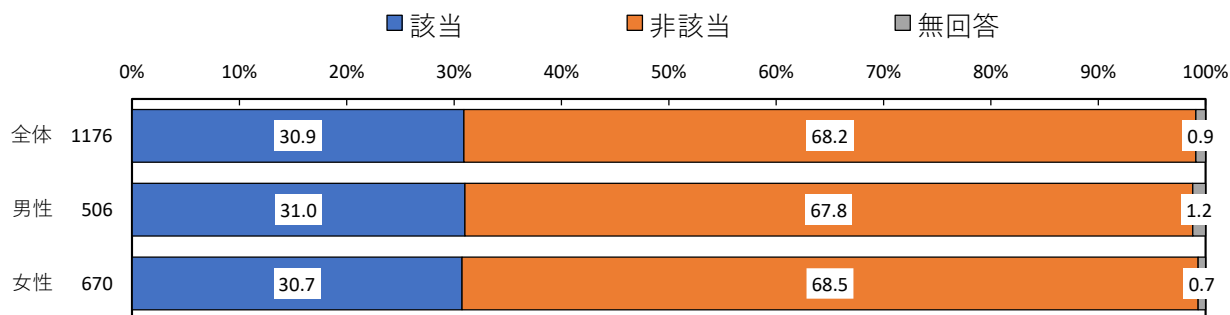
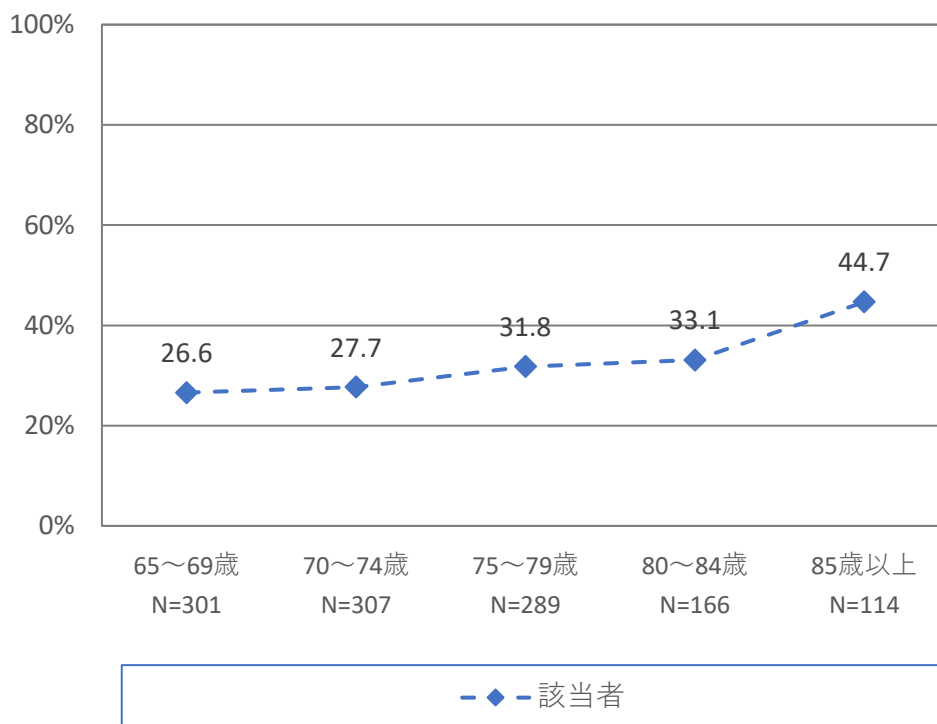


(2) 転倒リスク (一般高齢者)

年齢で見ると、年齢が上がるにつれて「該当者」の割合が増加し、85歳以上では4割半ばとなった。

性別で「該当者」の割合に大きな差は見られなかった。

圏域別で見ると、南圏域や北圏域で他の圏域より「該当者」の割合がわずかに高かった。

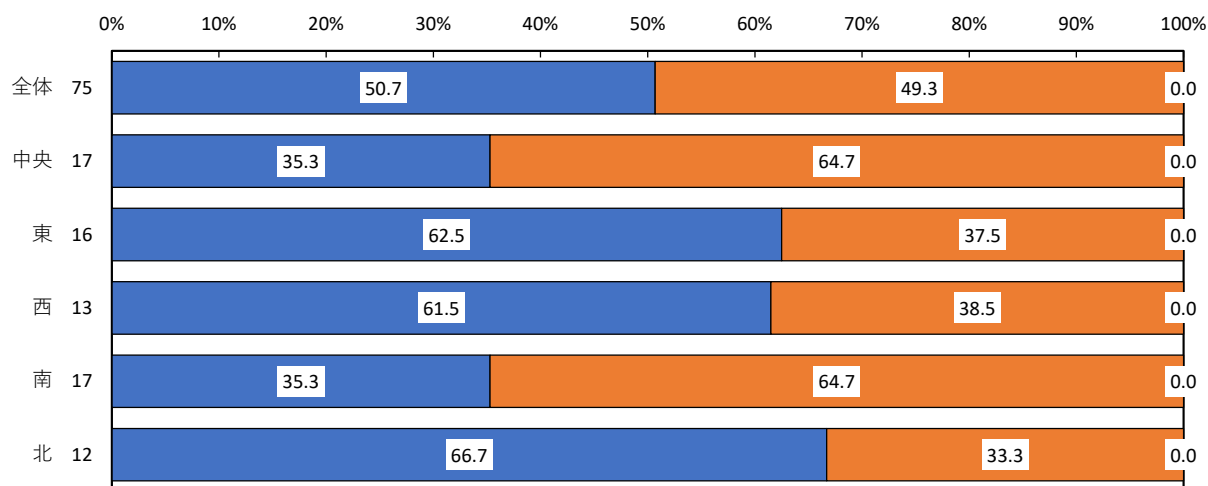
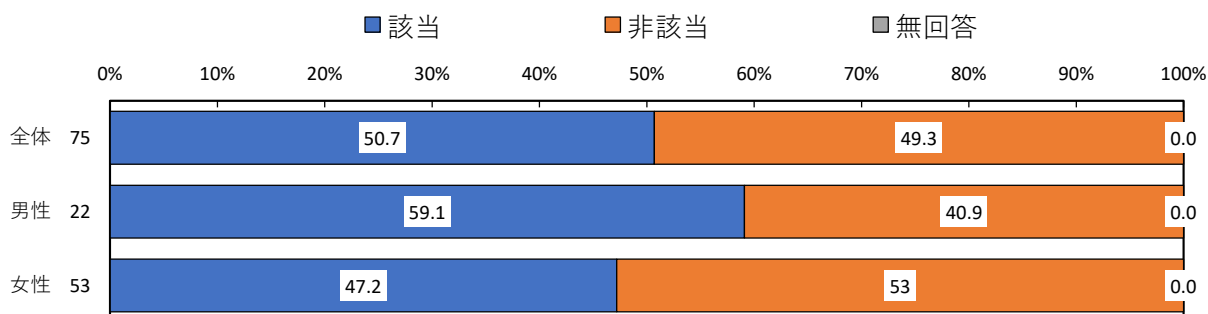
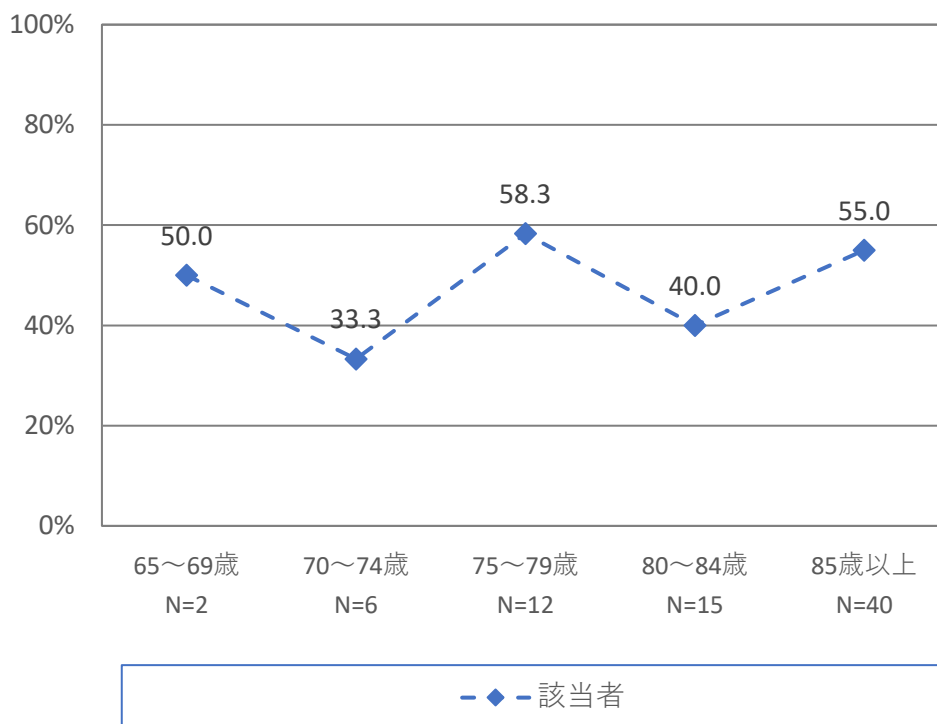


(2) 転倒リスク (要支援認定者)

年齢で見ると、75～79歳と85歳以上で「該当者」の割合が高かった。

性別で見ると、女性より男性で「該当者」の割合が高かった。

圏域別で見ると、中央圏域と南圏域で「該当者」の割合が低かった。

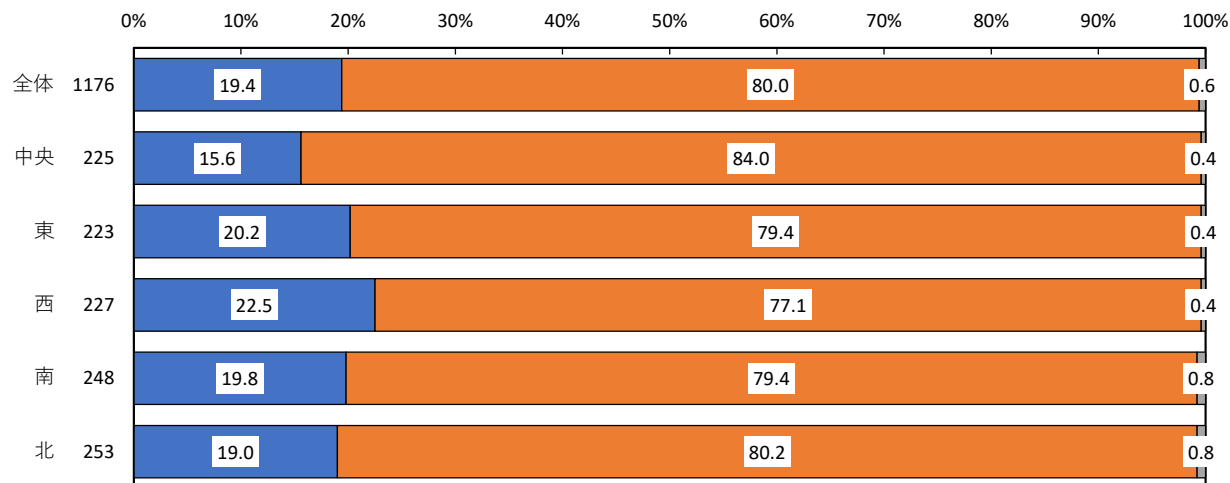
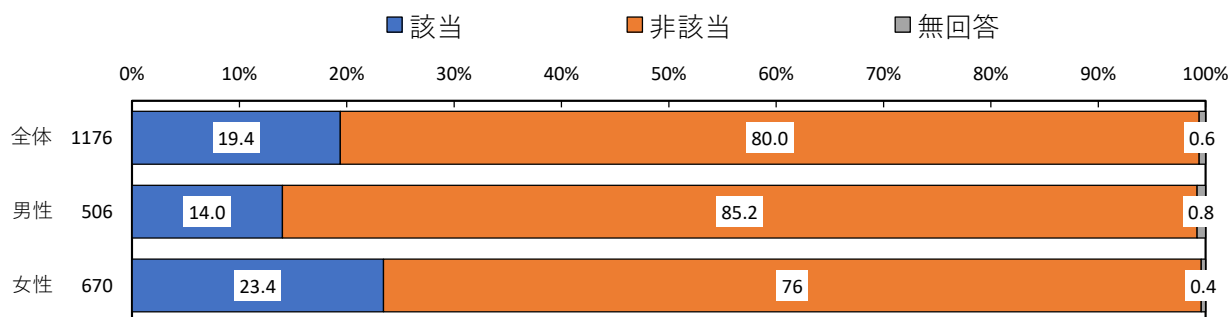
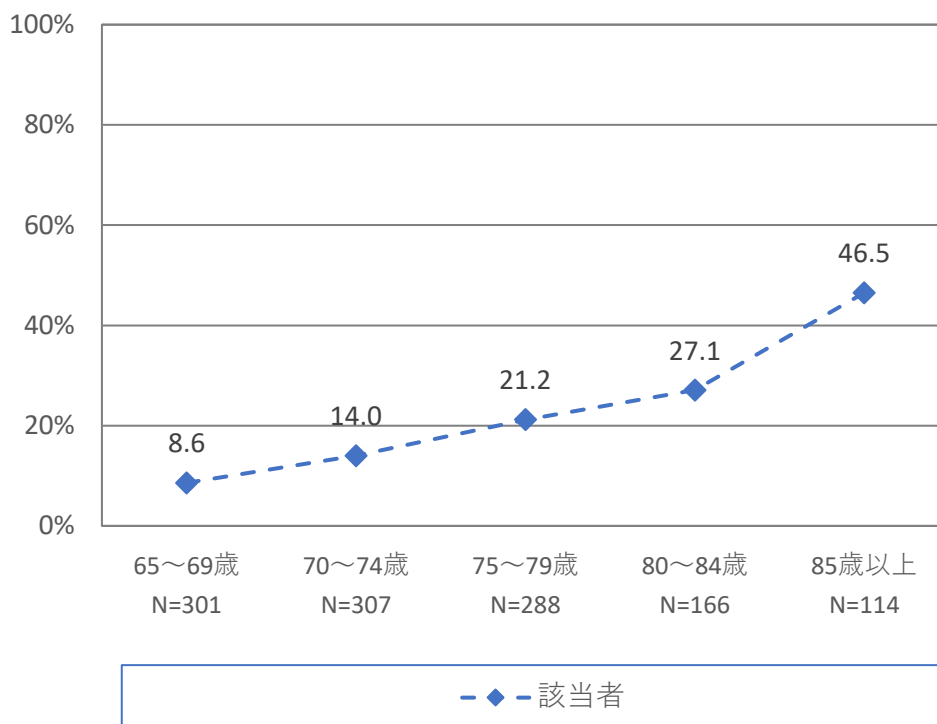


(3) 閉じこもり傾向（一般高齢者）

年齢で見ると、年齢が上がるにつれて「該当者」の割合が高くなった。

性別で見ると、男性より女性で「該当者」の割合が高かった。

圏域別で見ると、西圏域で他の圏域と比べて「該当者」の割合がやや高かった。

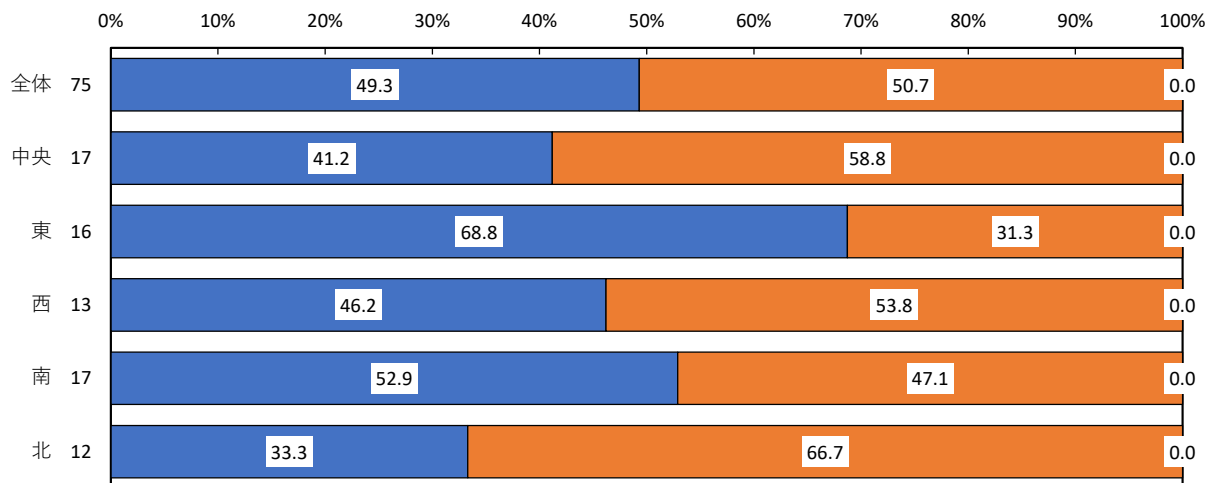
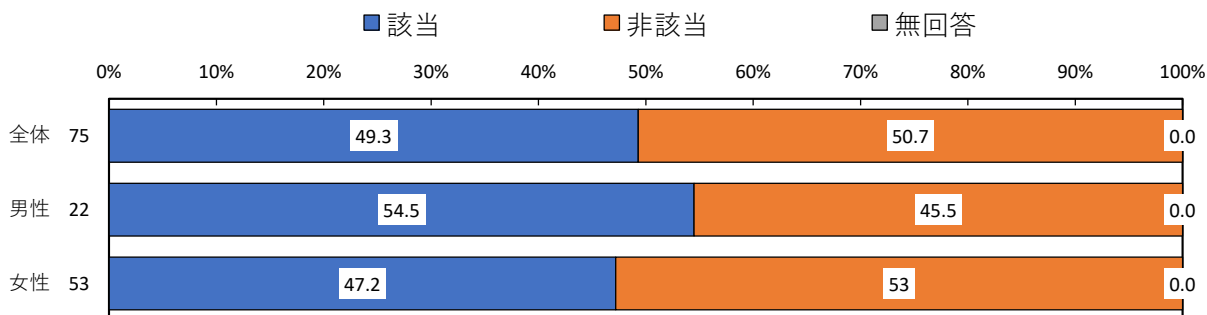
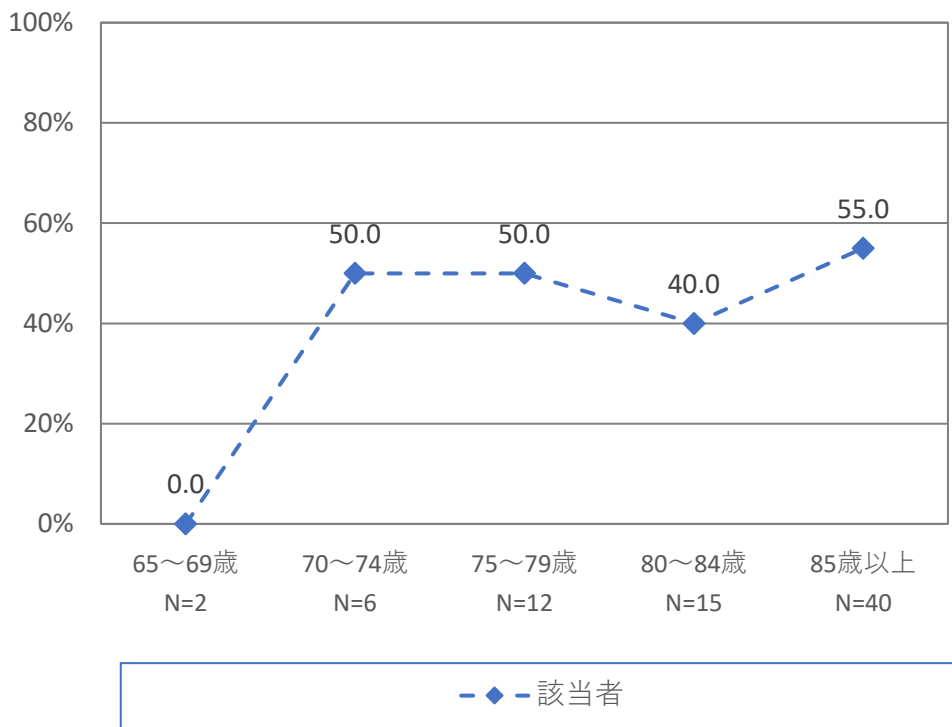


(3) 閉じこもり傾向 (要支援認定者)

年齢で見ると、85歳以上で「該当者」の割合が半数を超えた。

性別で見ると、女性より男性で「該当者」の割合が高かった。

圏域別で見ると、東圏域で他の圏域より「該当者」の割合が高かった。

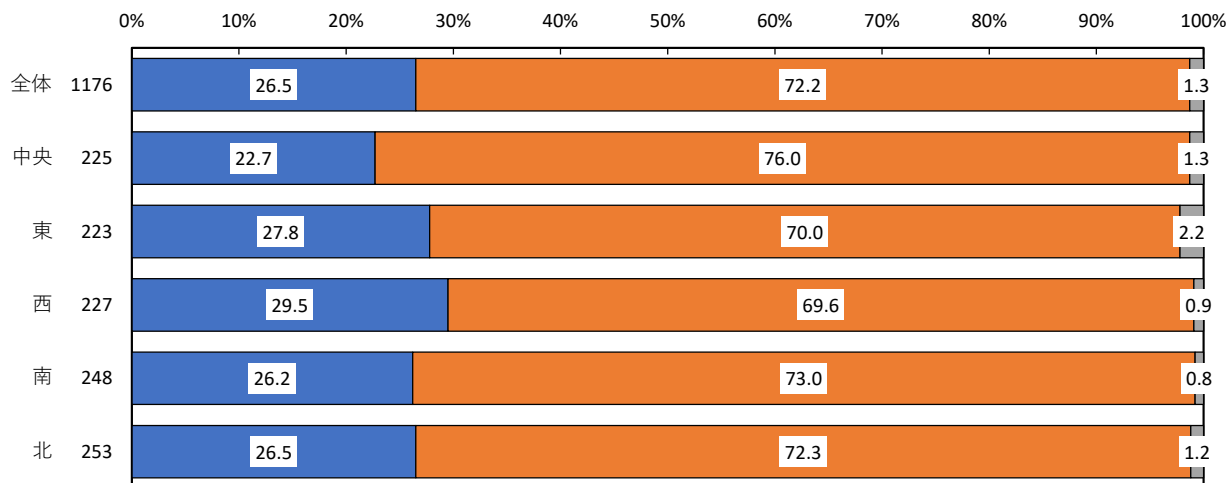
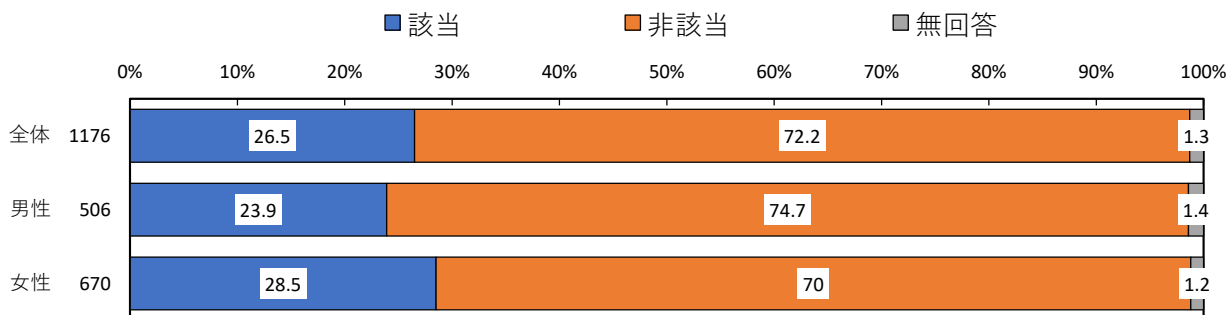
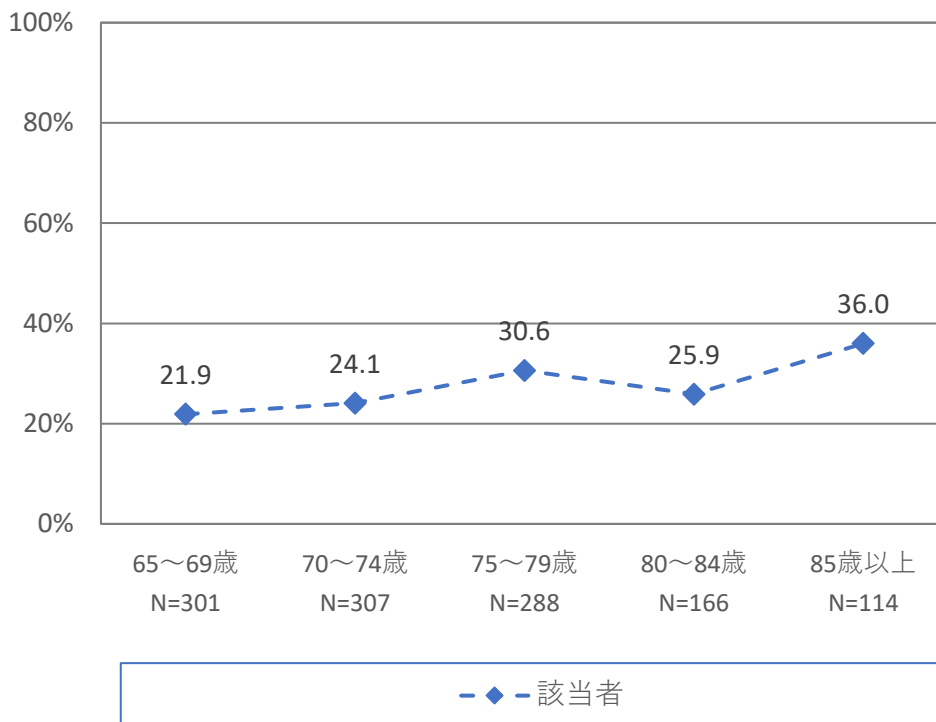


(4) 口腔機能の低下（一般高齢者）

年齢で見ると、85歳以上で「該当者」の割合が最も高かった。

性別で見ると、男性より女性で「該当者」の割合が高かった。

圏域別で見ると、西圏域で他の圏域より「該当者」の割合がやや高かった。

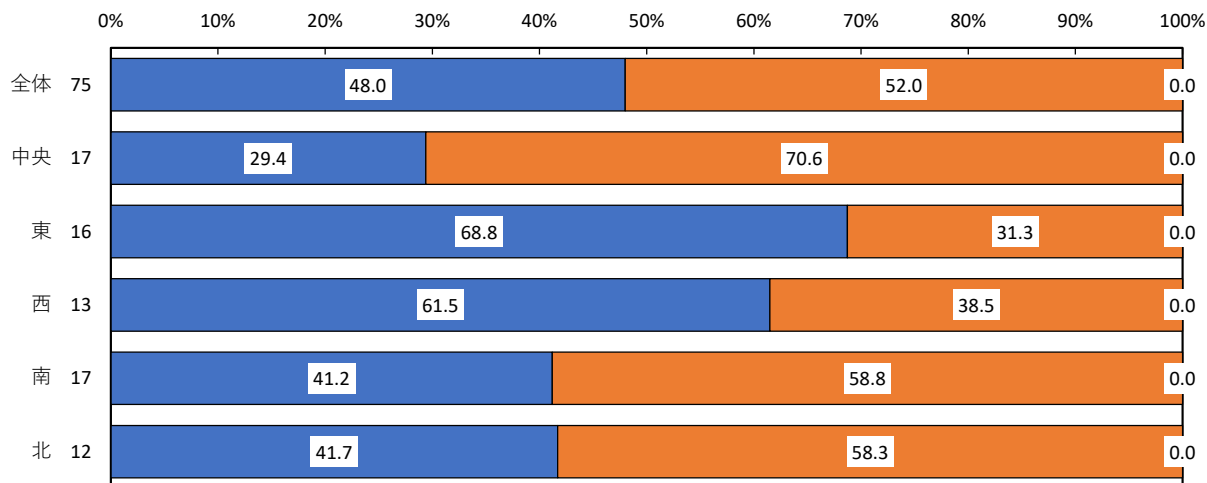
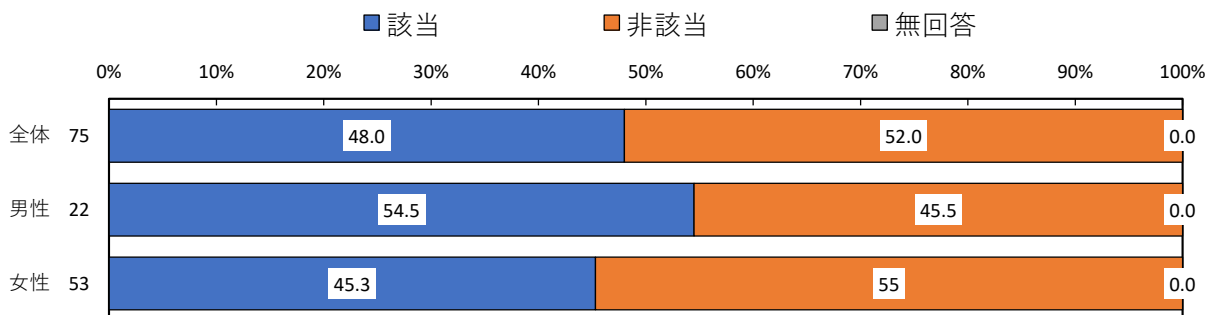
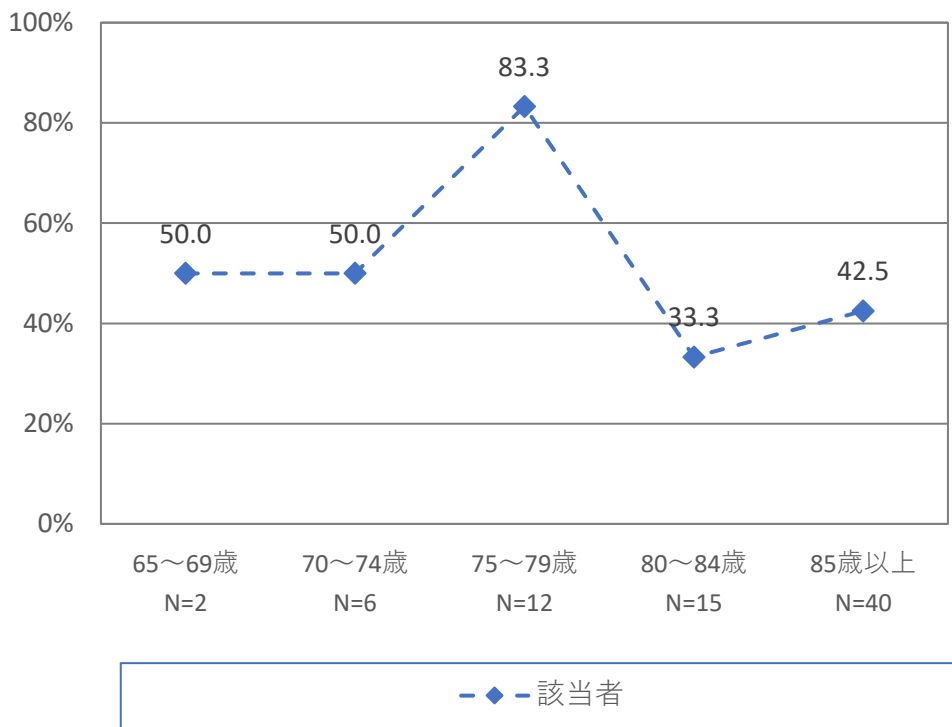


(4) 口腔機能の低下（要支援認定者）

年齢で見ると、75～79歳で「該当者」の割合が8割強と最も高かった。

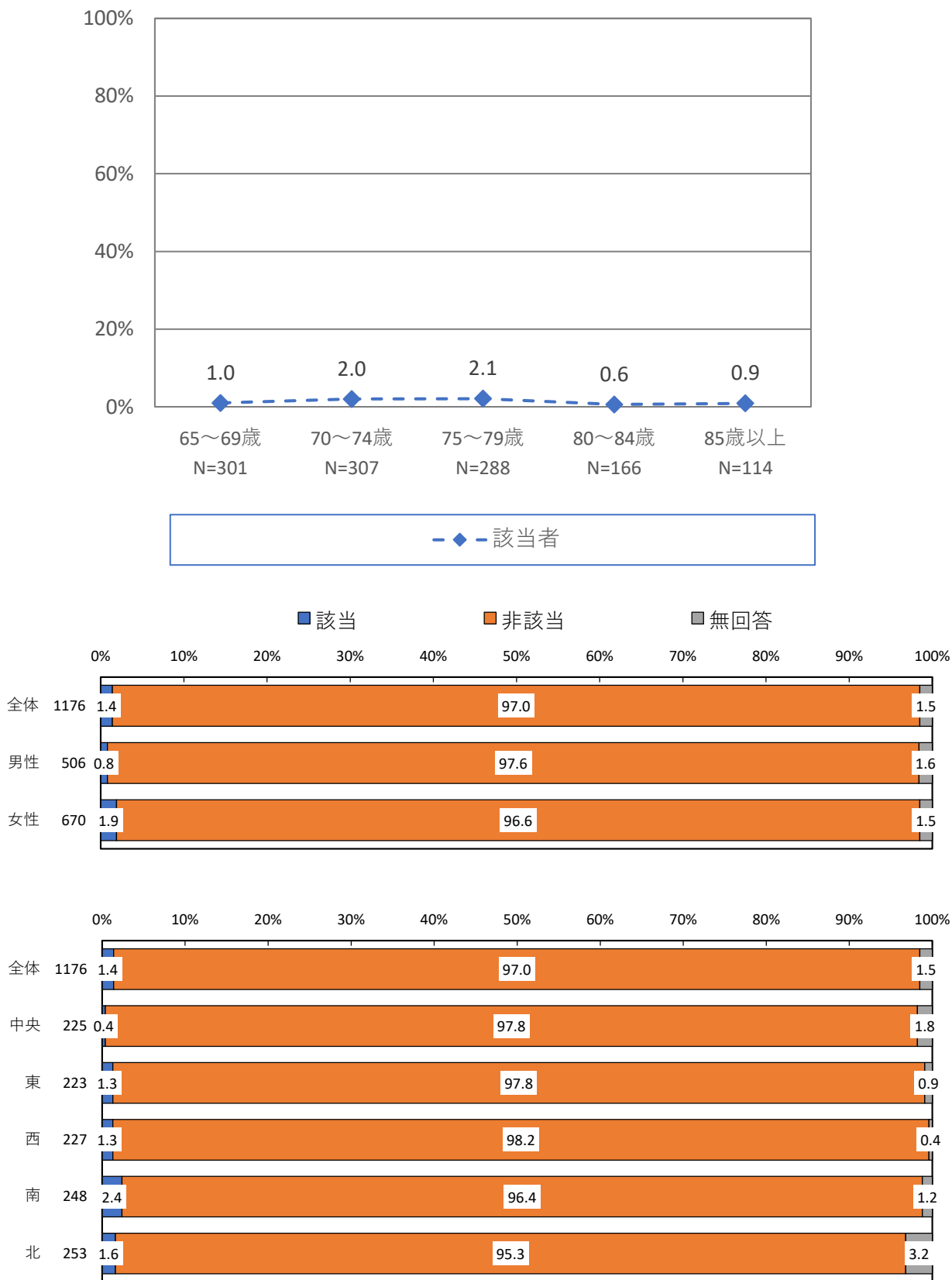
性別で見ると、女性より男性で「該当者」の割合が高かった。

圏域別で見ると、東圏域や西圏域で他の圏域より「該当者」の割合が高かった。



(5) 低栄養の傾向（一般高齢者）

年齢、性別、圏域別いずれも、大きな差はなかった。

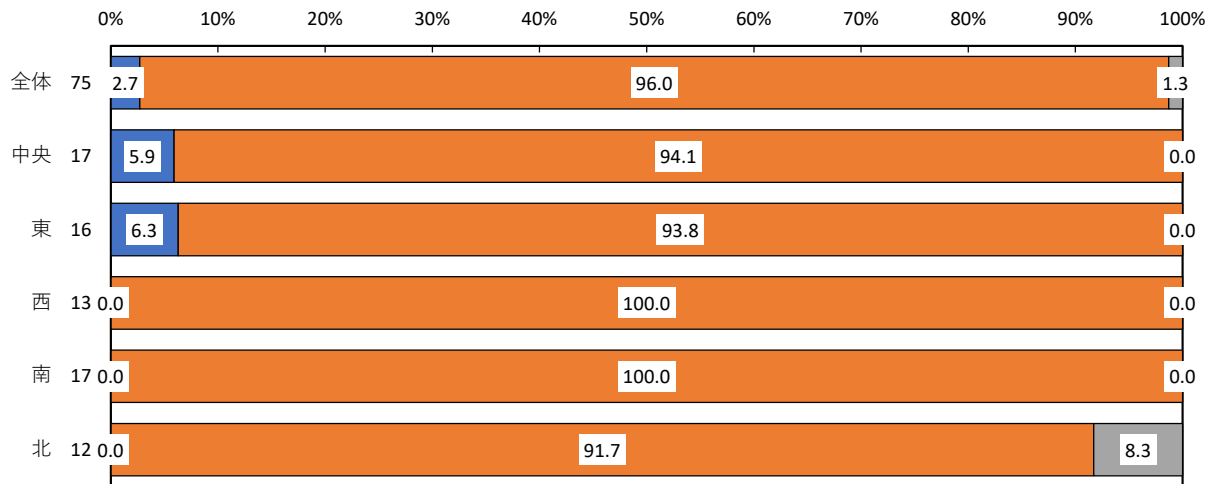
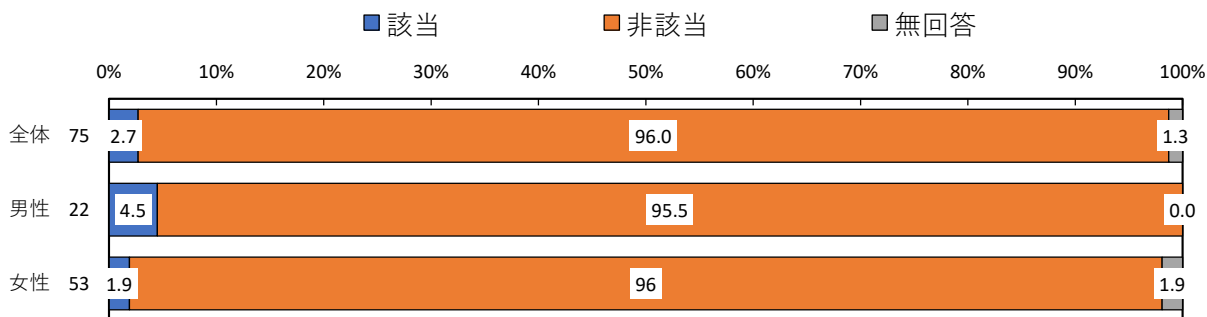
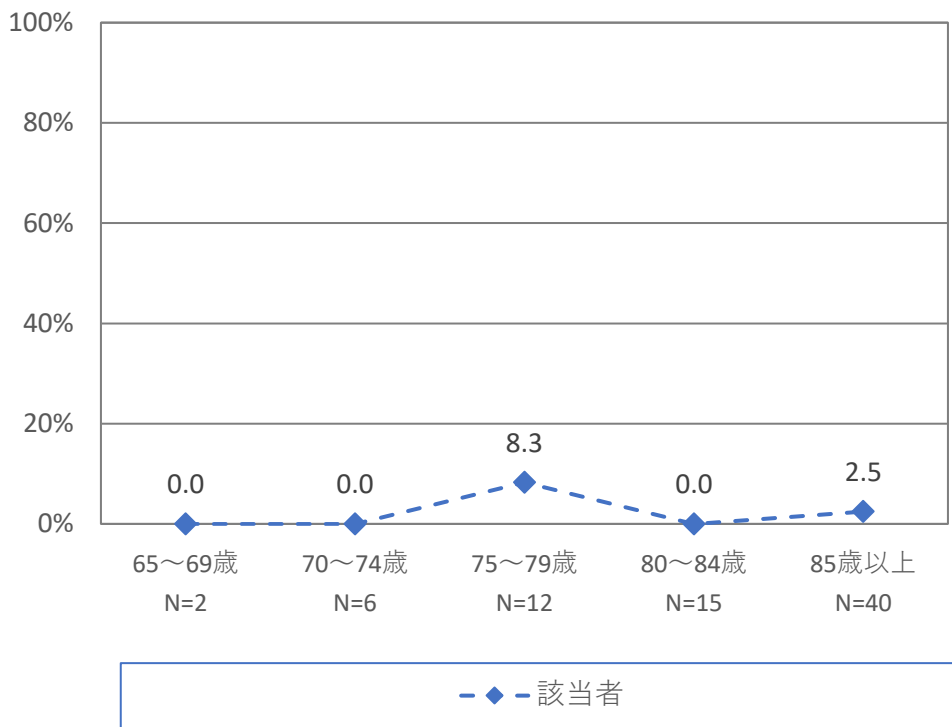


(5) 低栄養の傾向 (要支援認定者)

年齢で見ると、75～79歳と85歳以上にのみ「該当者」が存在した。

性別で見ると、女性より男性で「該当者」の割合が高かった。

圏域別で見ると、東圏域や中央圏域で他の圏域より「該当者」の割合が高かった。

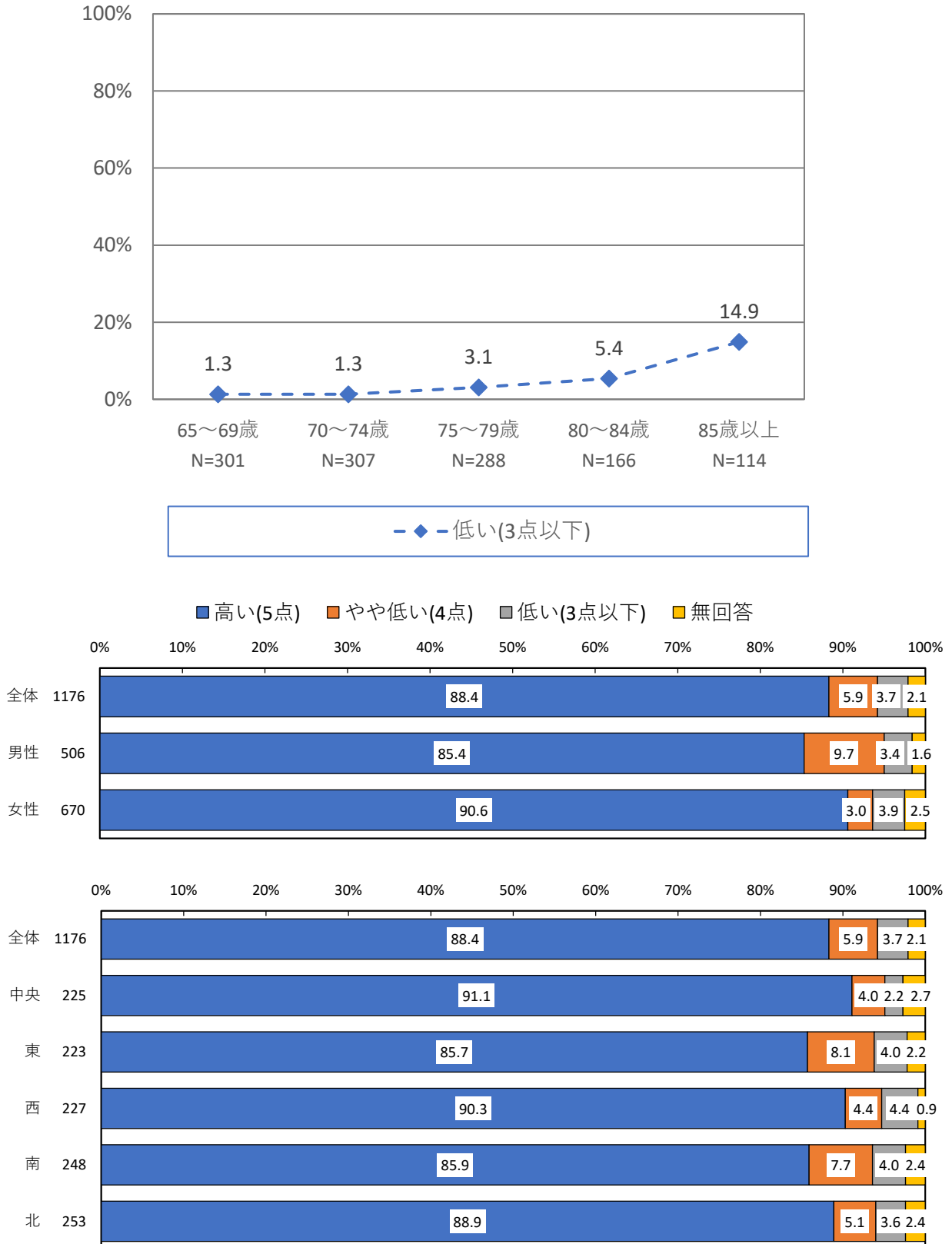


(6) 手段的日常生活動作 (IADL) 尺度 (一般高齢者)

年齢で見ると、年齢が上がるにつれて「低い(3点以下)」の割合が増加し、85歳以上では1割半ばだった。

性別で見ると、男性より女性で「低い(3点以下)」の割合がわずかに高かったが、「やや低い(4点)」との合計では男性の割合が高かった。

圏域別で見ると、中央で「高い(5点)」の割合が高かった。

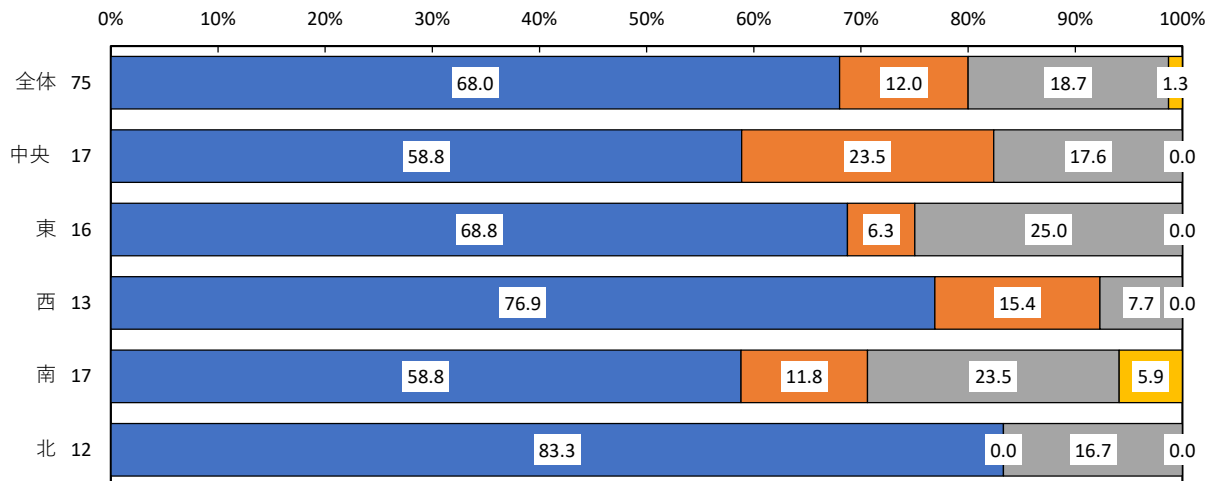
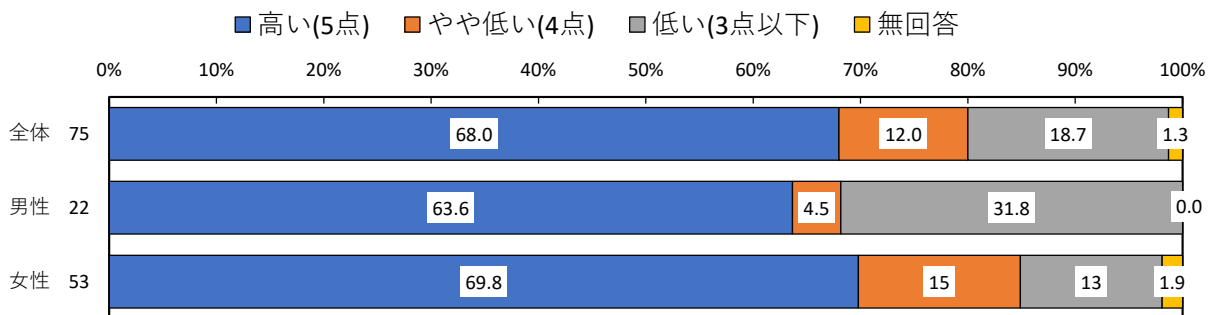
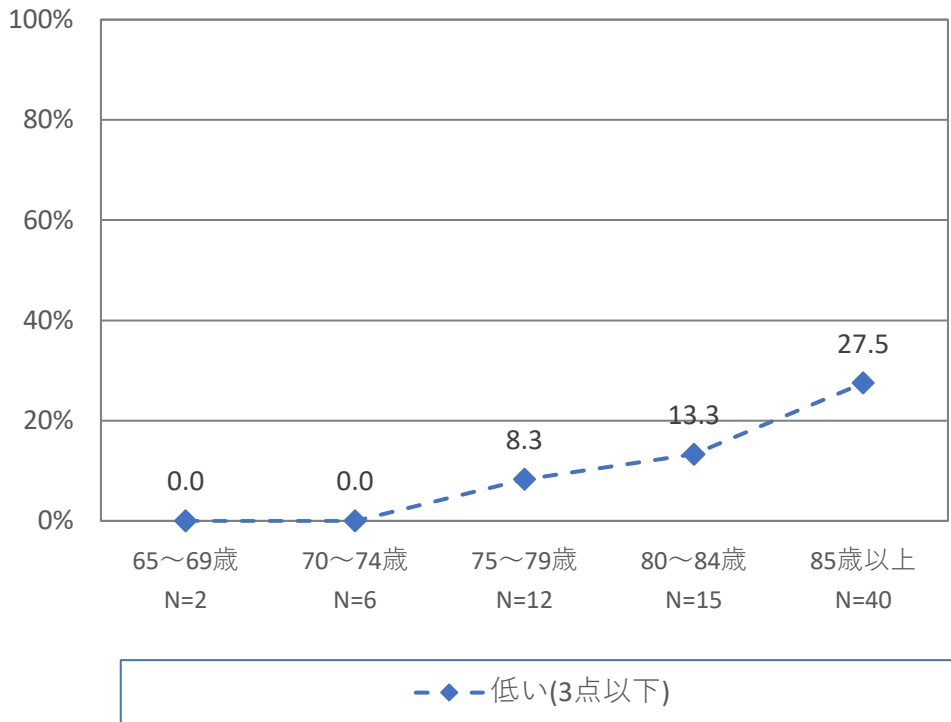


(6) 手段的日常生活動作 (IADL) 尺度 (要支援認定者)

年齢で見ると、年齢が上がるにつれて「低い(3点以下)」の割合が増加し、85歳以上では2割台後半となった。

性別で見ると、女性より男性で「低い(3点以下)」の割合が高かった。

圏域別で見ると、中央圏域や南圏域で「4点(やや低い)」と「3点(低い)」を足した割合が高かった。

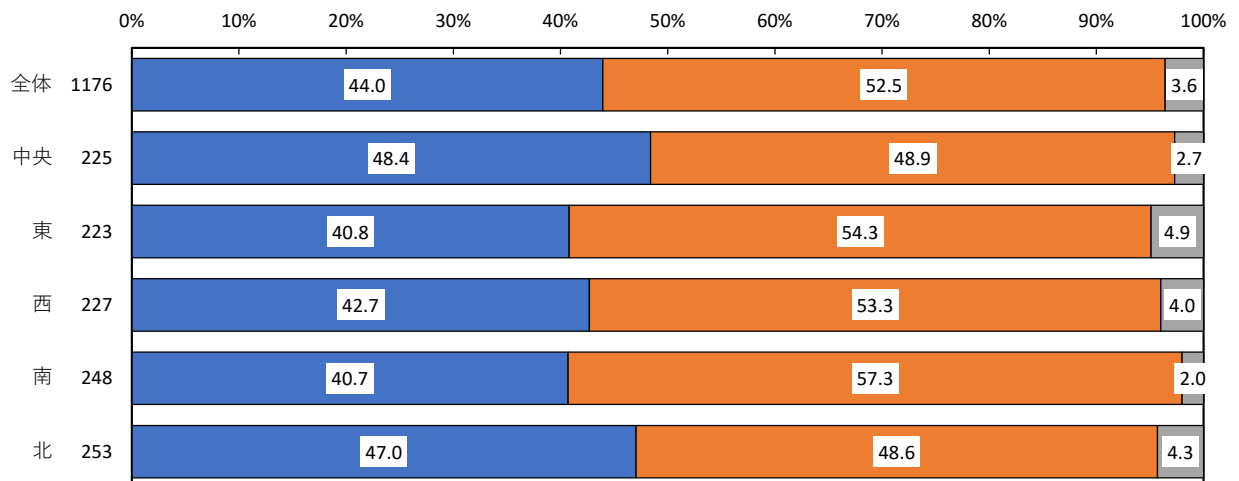
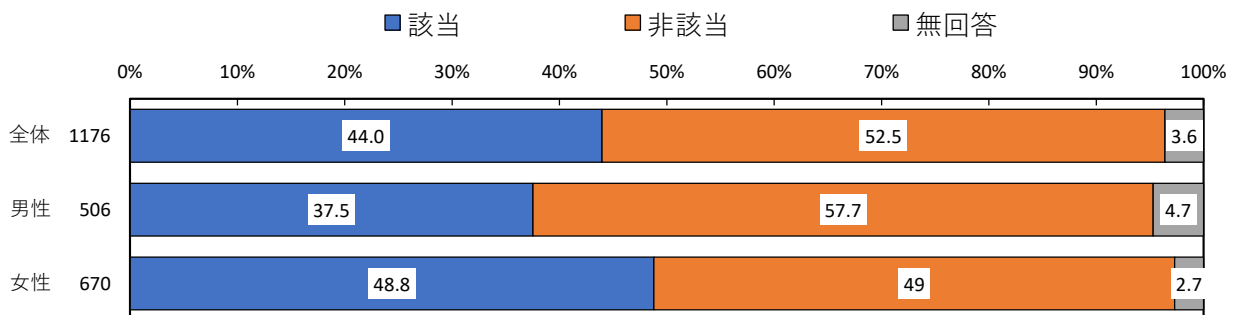
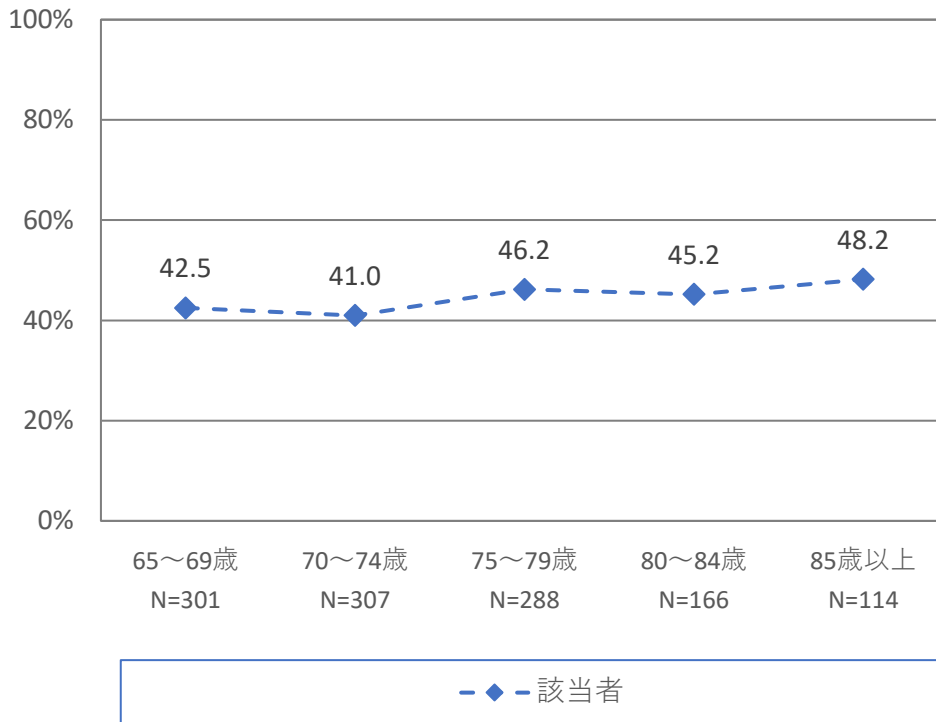


(7) うつ傾向（一般高齢者）

年齢で見ると、すべての年齢層において4割を超えた。

性別で見ると、男性より女性で「該当者」の割合が高かった。

圏域別で見ると、中央圏域や北圏域で他の圏域より「該当者」の割合がやや高かった。

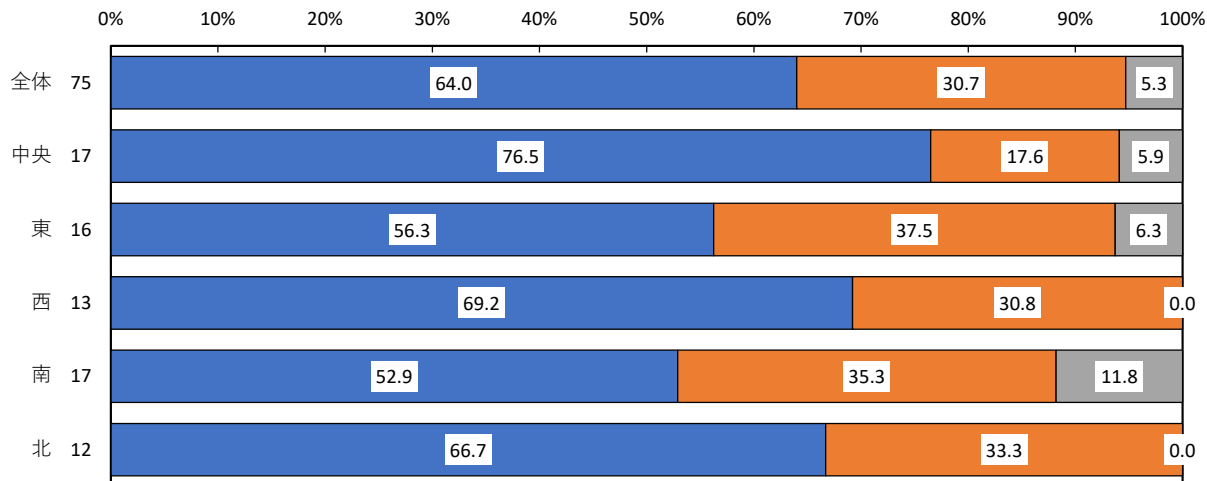
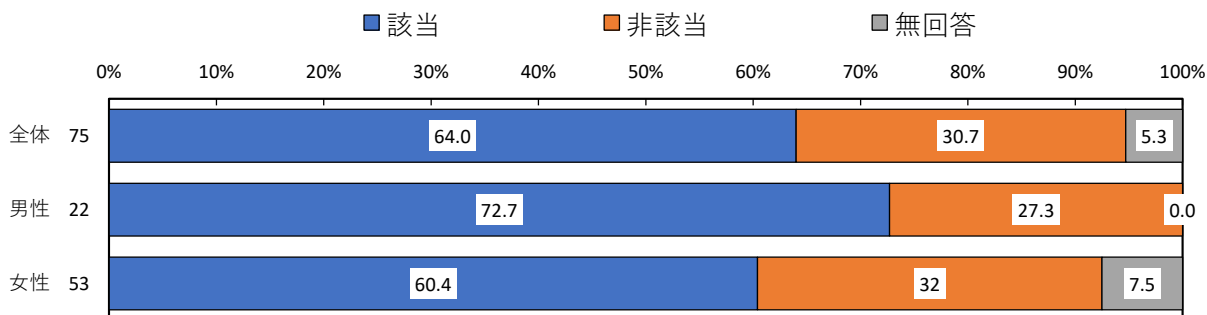
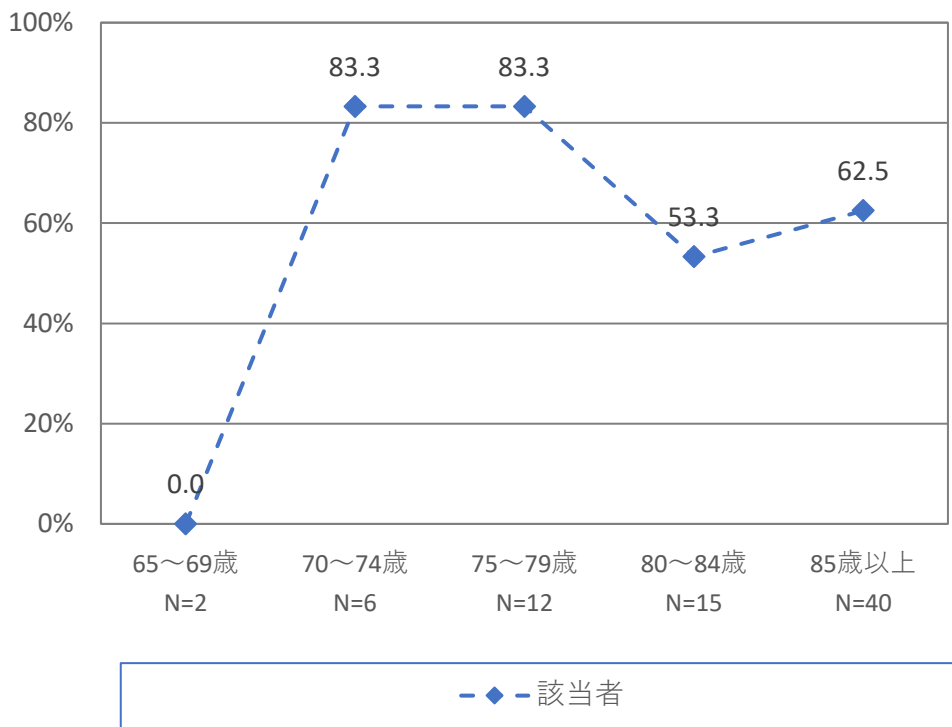


(7) うつ傾向 (要支援認定者)

年齢で見ると、70歳以上で「該当者」の割合が5割を超えた。

性別で見ると、女性より男性で「該当者」の割合が高かった。

圏域別で見ると、中央圏域で他の圏域より「該当者」の割合が高かった。



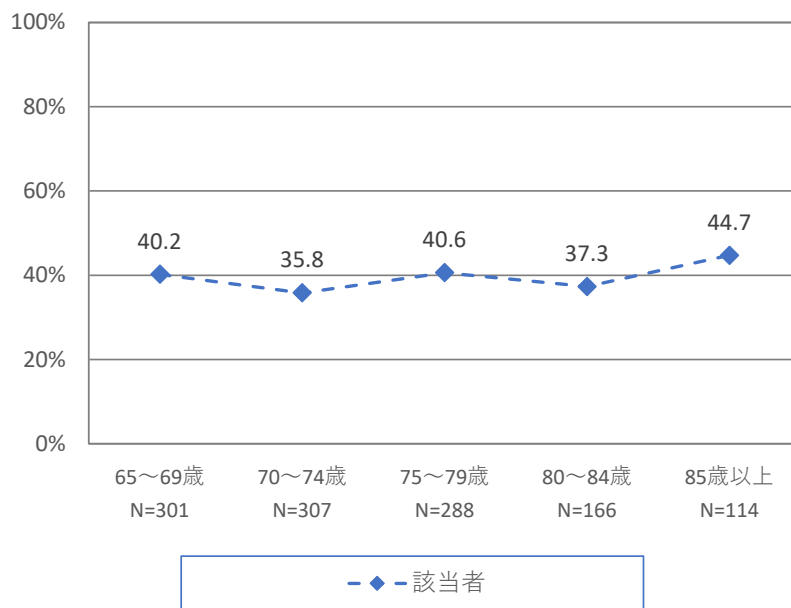
(参考) うつ傾向 (一般高齢者)

リスク判定分析のうち、もっともリスクが高いうつ傾向について、項目別の分析を行った。

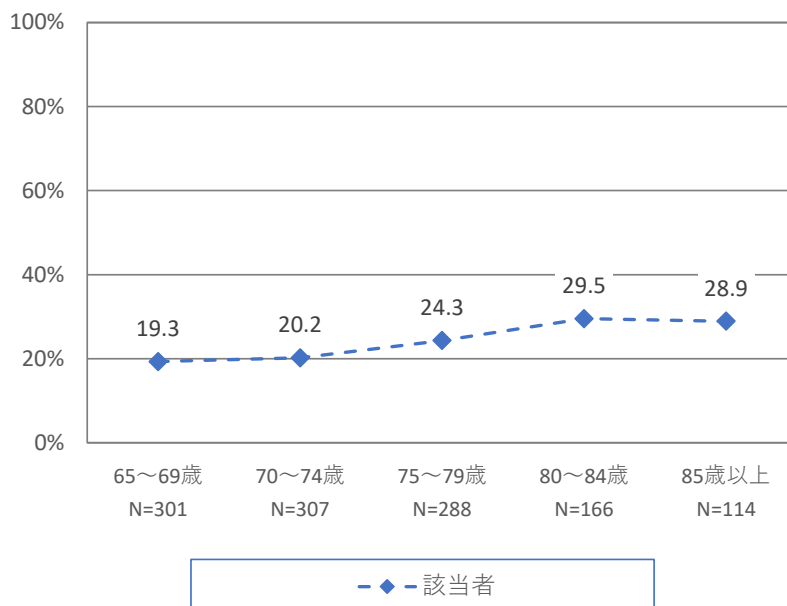
一般高齢者では、問8(3)「この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか」で「1.はい」の割合が85歳以上でやや高かったが、年代間での顕著な差はなかった。問8(4)「この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか」では、年代が高い層で「1.はい」の割合が高い傾向がみられた。

設問番号	設問内容	選択肢
問8 (3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
問8 (4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

【問8 (3)】



【問8 (4)】

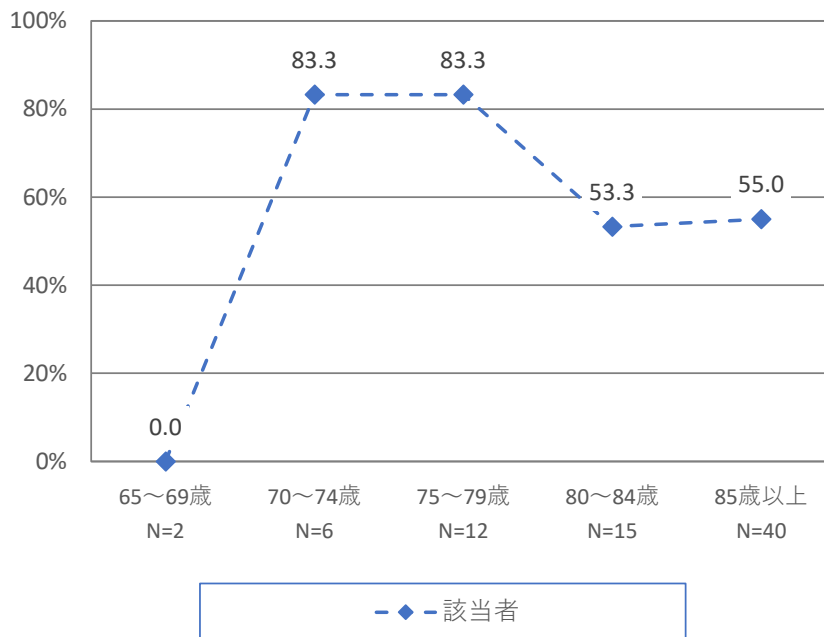


(参考) うつ傾向 (要支援認定者)

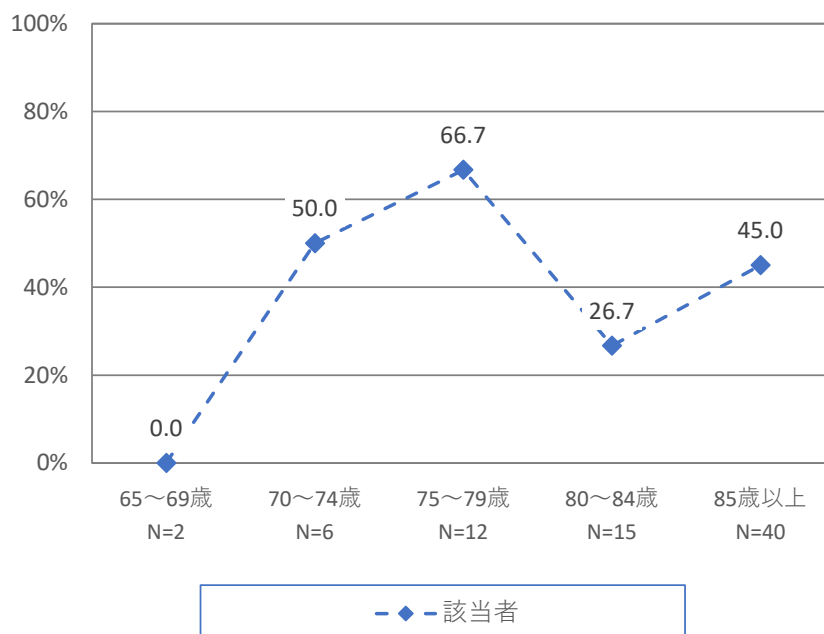
要支援認定者では、問8(3)「この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか」、問8(4)「この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか」とも70代で「1.はい」の回答割合が高かった。

設問番号	設問内容	選択肢
問8 (3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
問8 (4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

【問8 (3)】



【問8 (4)】

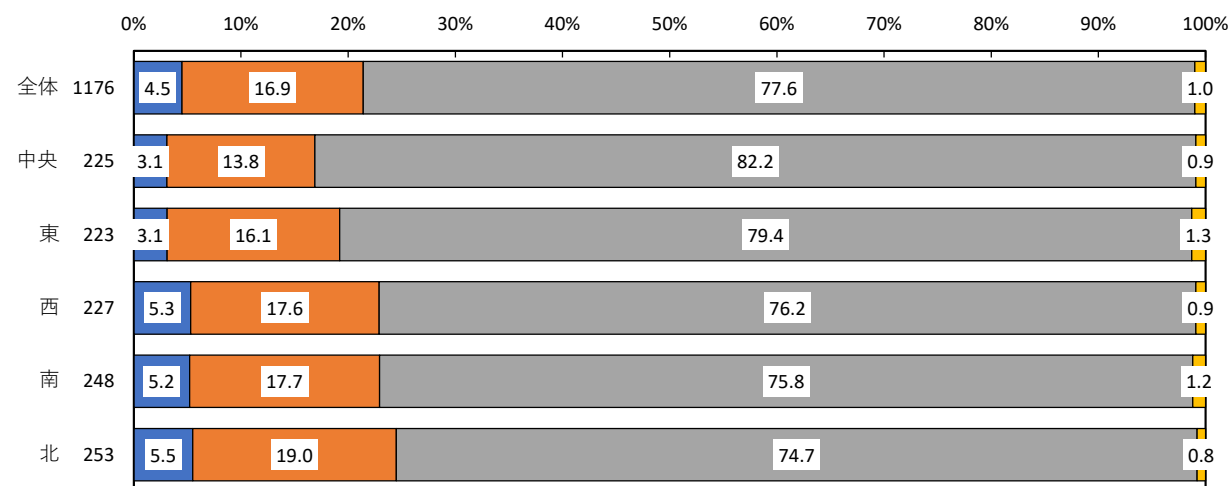
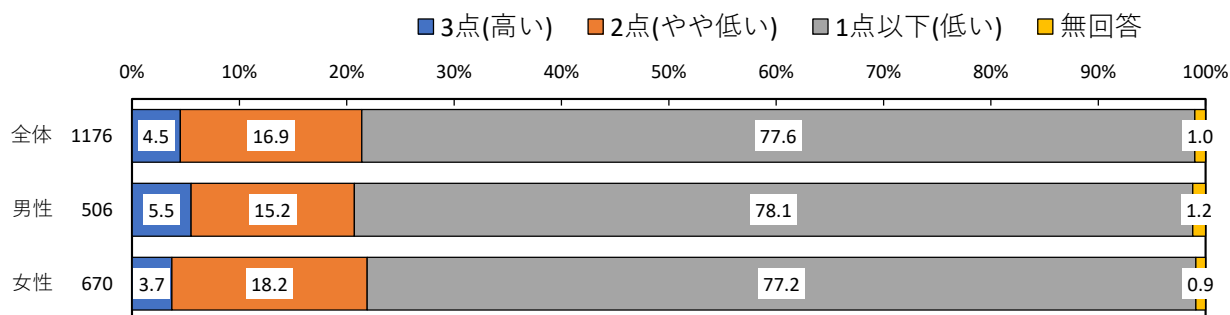
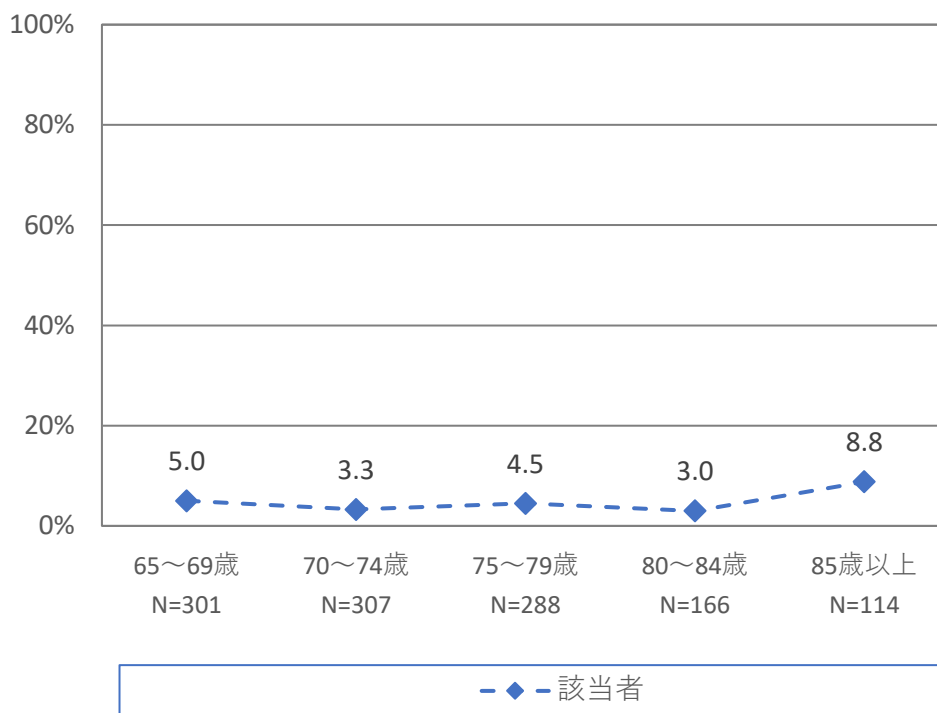


(8) 認知機能の低下（一般高齢者）

年齢で見ると、85歳以上で「3点(高い)」の割合が高かった。

性別で見ると、女性より男性で「3点(高い)」の割合が高かった。

圏域別で見ると、北圏域では他の圏域と比べて「3点(高い)」の割合が高かった。

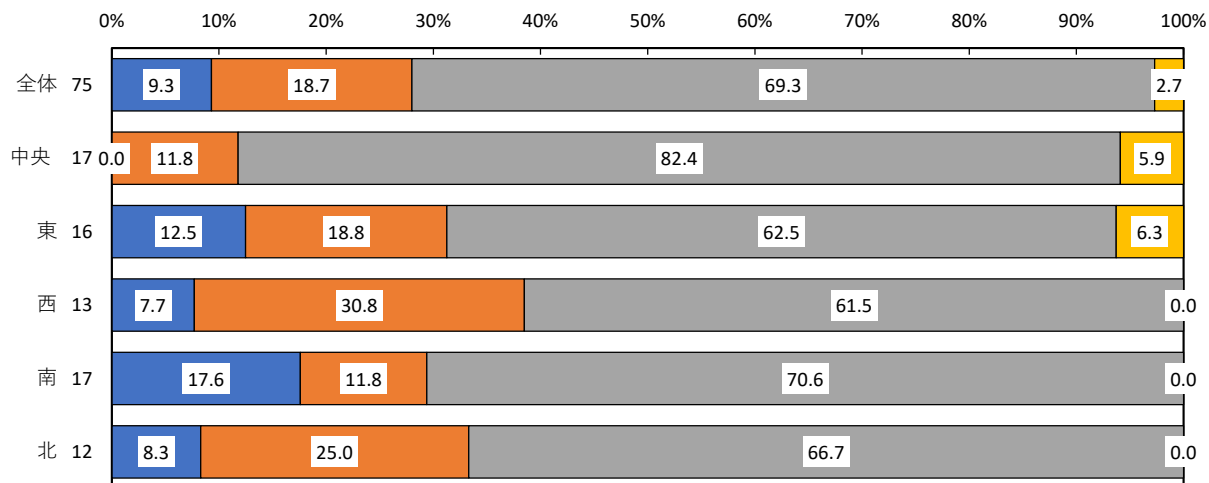
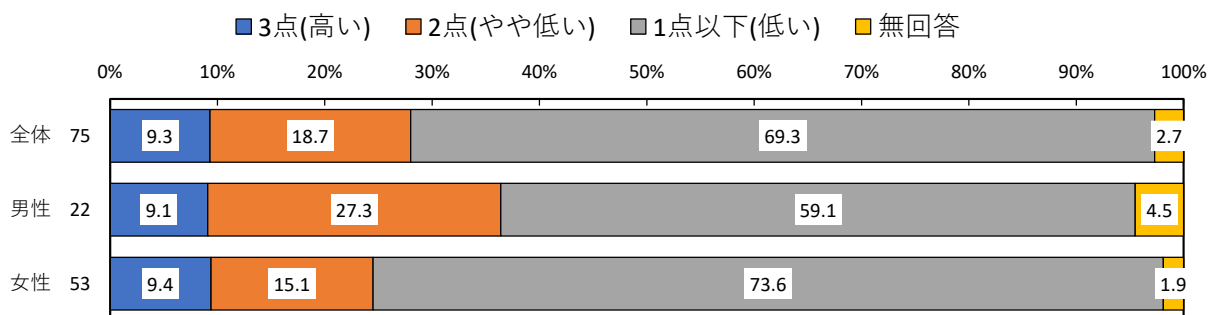
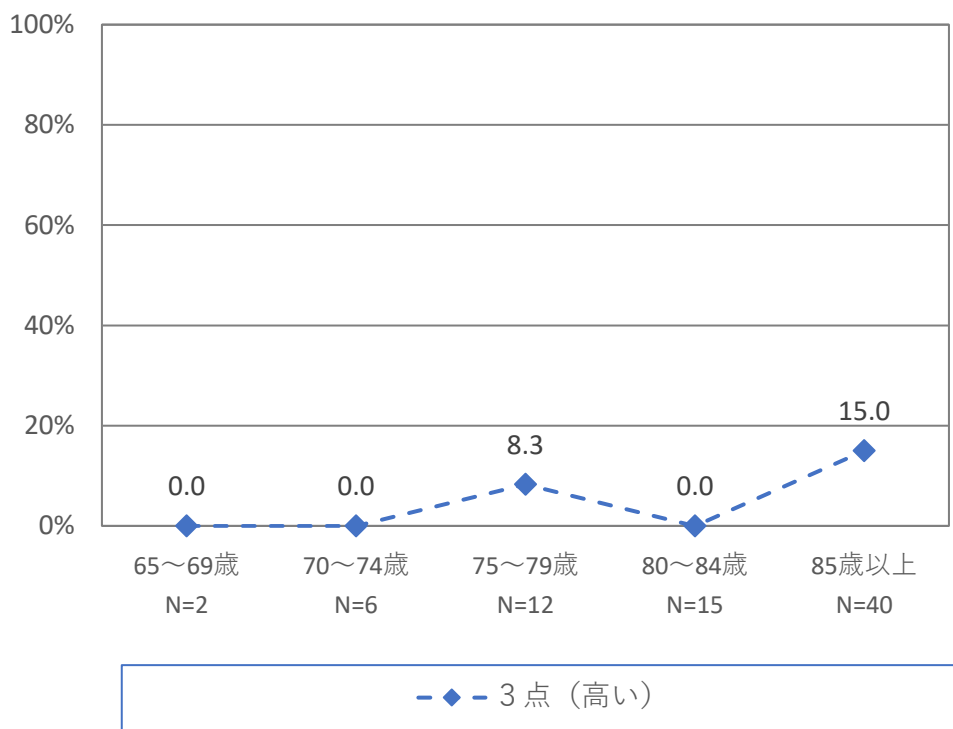


(8) 認知機能の低下 (要支援認定者)

年齢で見ると、85歳以上で「3点(高い)」の割合が高かった。

性別で見ると、「3点(高い)」の割合に大きな差はなかった。

圏域別で見ると、南圏域では他の圏域と比べて「3点(高い)」の割合が高かった。



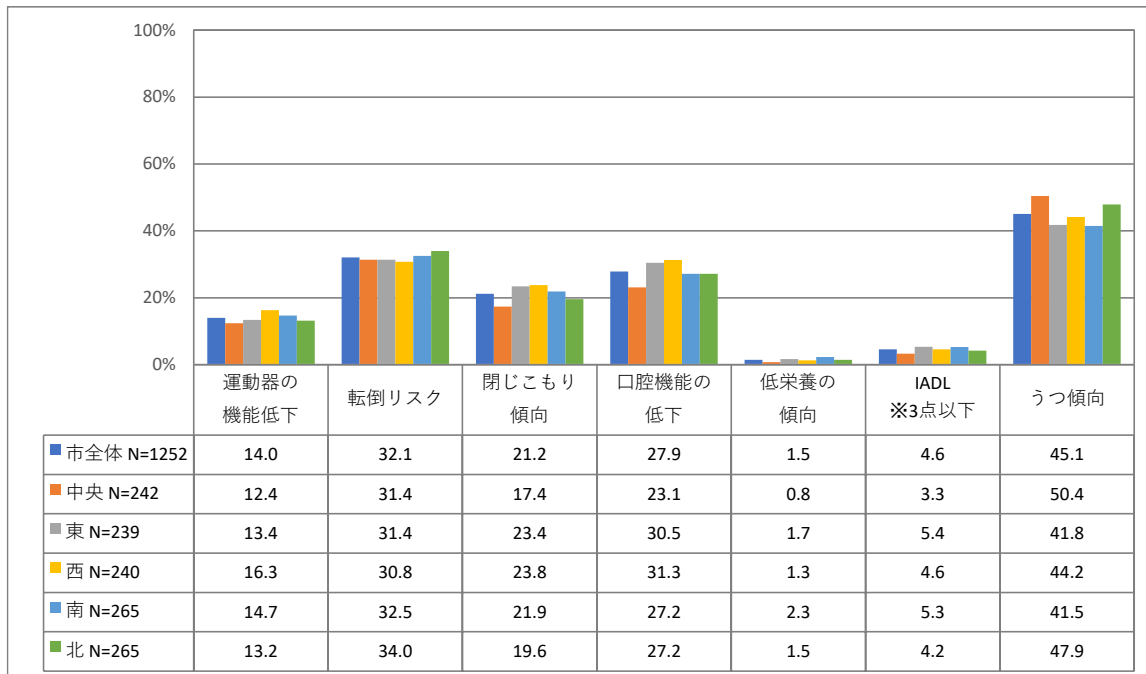
3. 圏域別リスクの比較

(1) 圏域別リスクの比較

【全体】

各リスクの該当率をみると、いずれの圏域でも「うつ傾向」、「転倒リスク」、「口腔機能の低下」の順に高くなっており、「IADL」や「低栄養の傾向」は低かった。

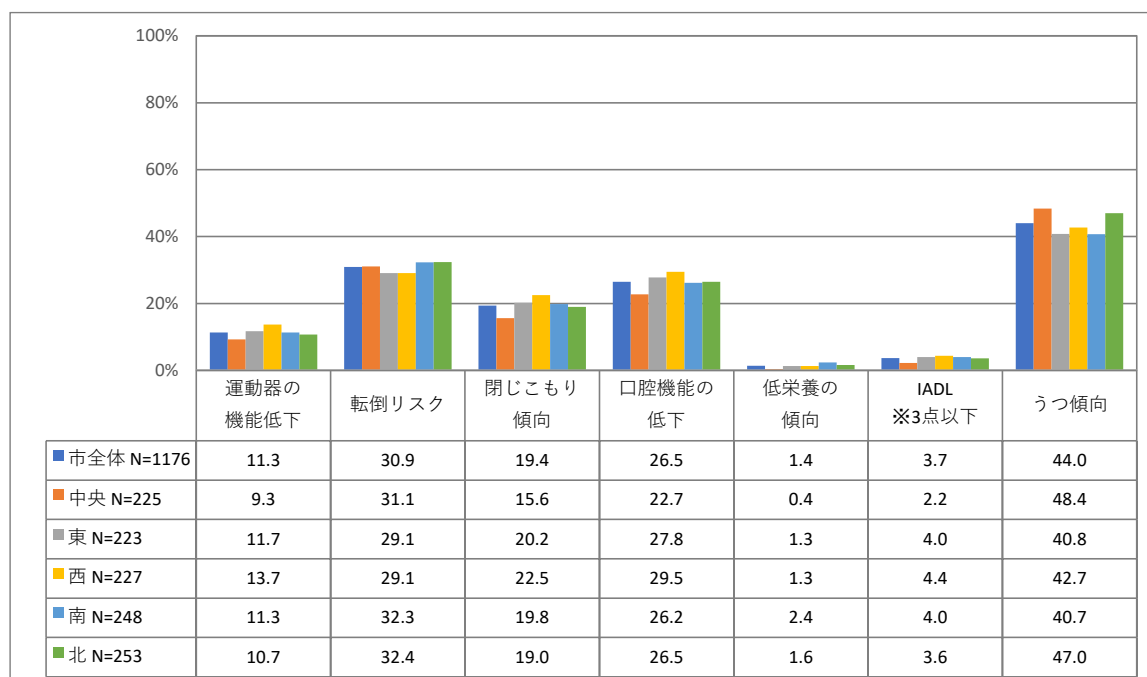
リスク別にみると「うつ傾向」は中央圏域、「転倒リスク」は北圏域、「口腔機能の低下」は西圏域で高かった。



【一般高齢者】

一般高齢者において、各リスク該当者の該当者出現率を圏域別にみると、市全体では「うつ傾向」、「転倒リスク」、「口腔機能の低下」の順に高かった。

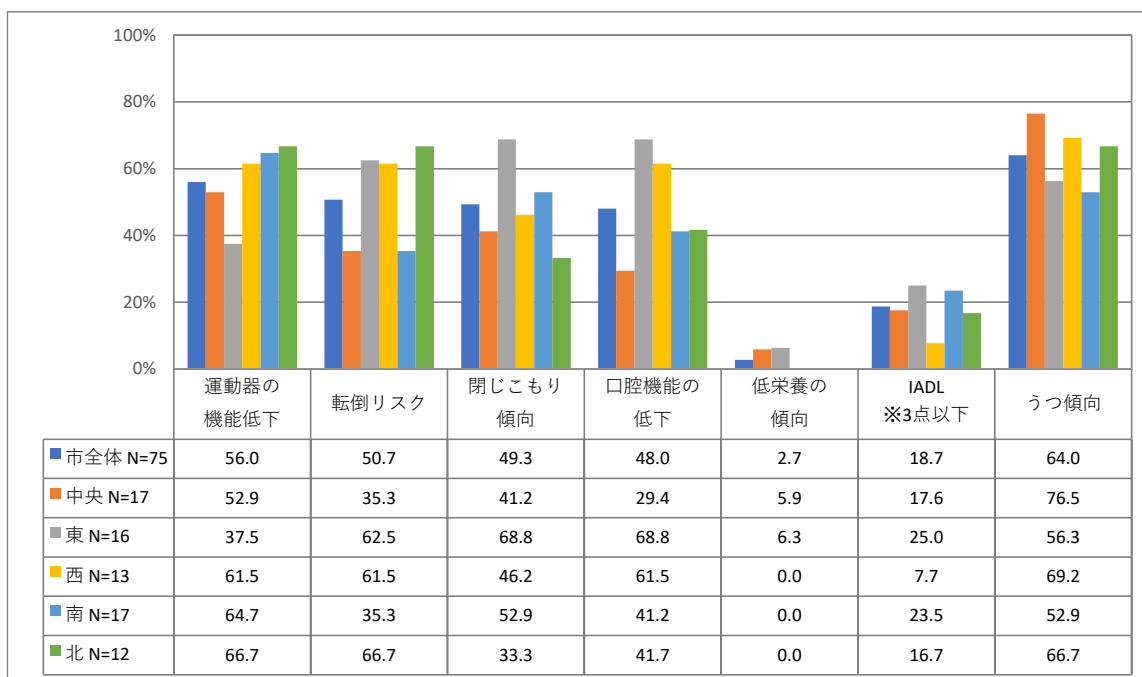
リスク別にみると、「うつ傾向」では中央圏域、「転倒リスク」では北圏域と南圏域、「口腔機能の低下」では西圏域が高かった。



【要支援認定者】

要支援認定者において、各リスク該当者の該当者出現率を圏域別にみると、市全体では「うつ傾向」、「運動器の機能低下」、「転倒リスク」の順に高かった。

リスク別にみると、「うつ傾向」では中央圏域、「運動器の機能低下」と「転倒リスク」では北圏域が高かった。

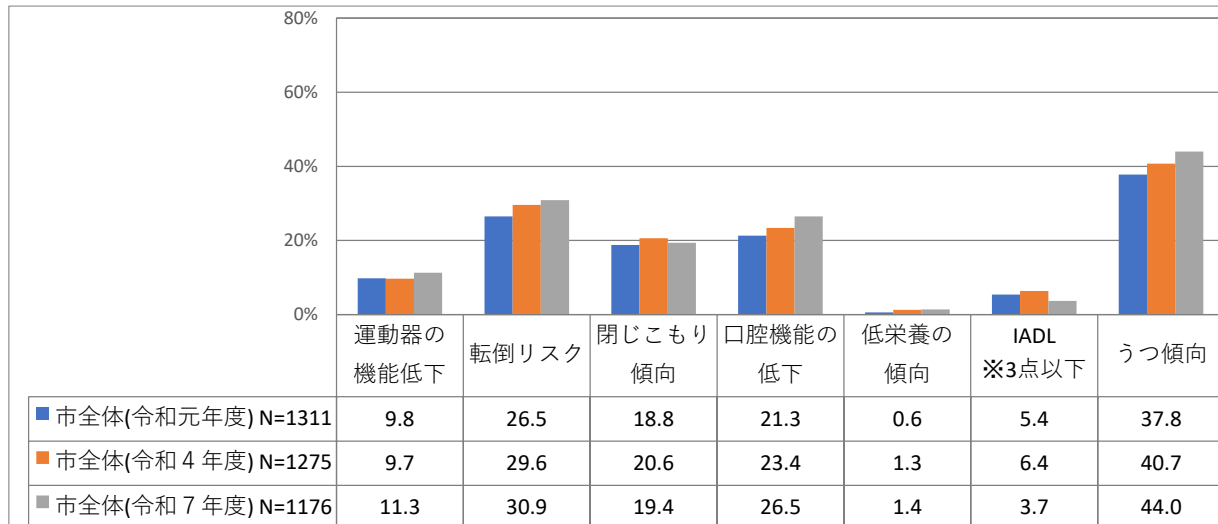


(2) 各リスクの経年比較

①各リスクの経年比較

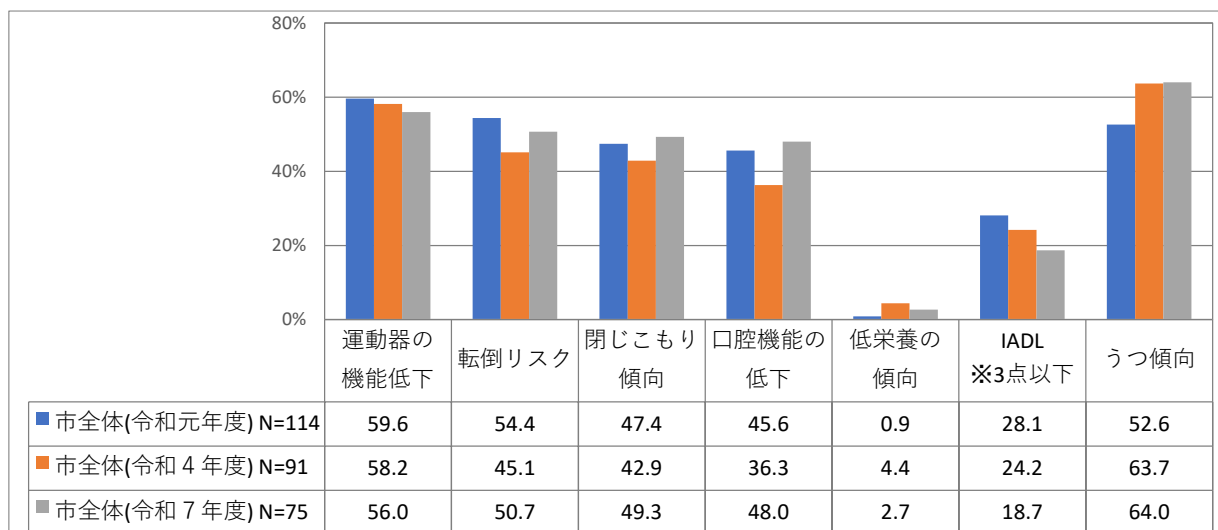
【一般高齢者】

各リスクの該当率を経年でみると、「転倒リスク」「口腔機能の低下」「うつ傾向」はこれまでの調査と比較して増加している。



【要支援認定者】

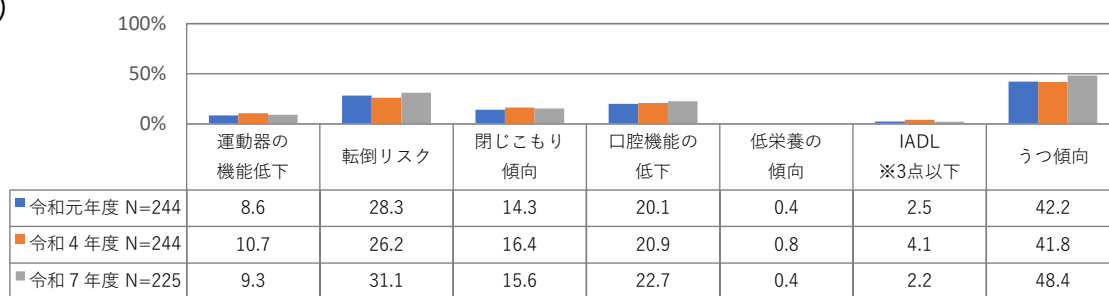
「運動器の機能低下」「IADL」はこれまでの調査と比較して低下しているが、「うつ傾向」は増加している。



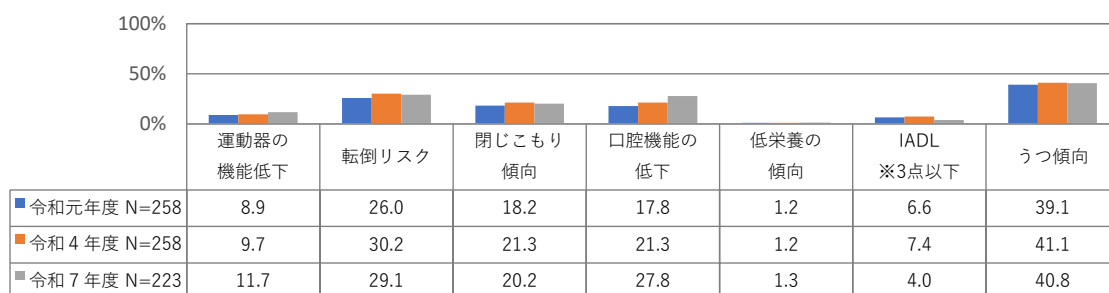
②圏域別各リスクの経年比較

【一般高齢者】

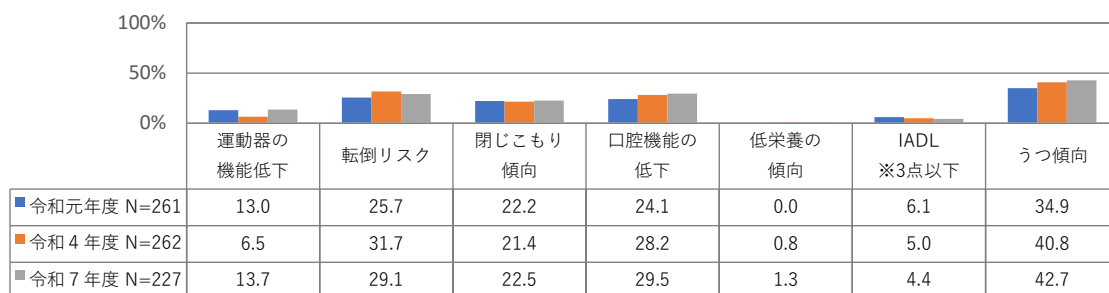
(中央圏域)



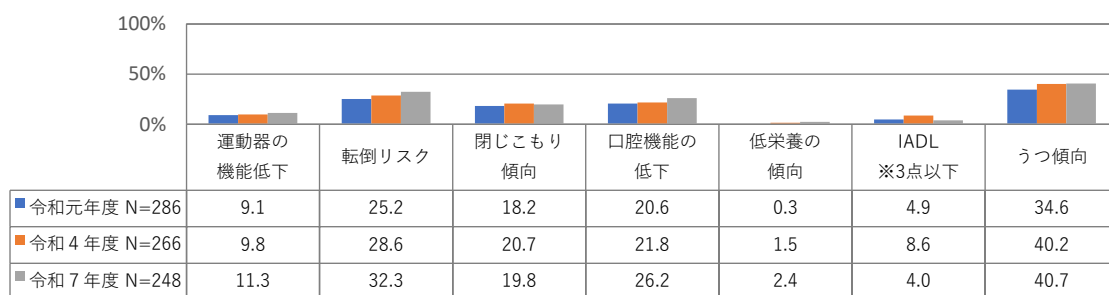
(東圏域)



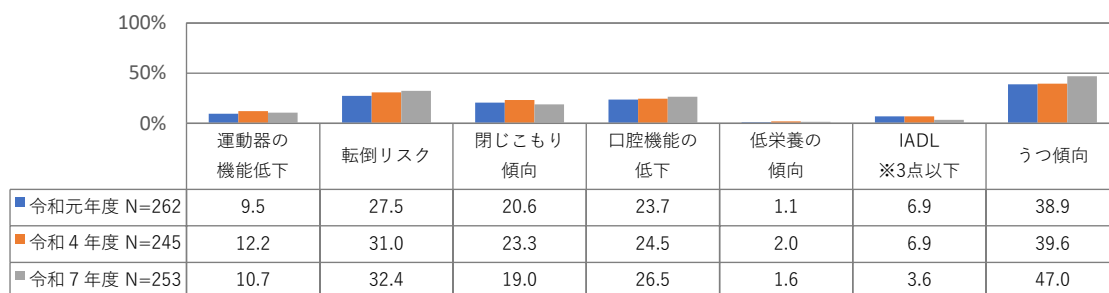
(西圏域)



(南圏域)

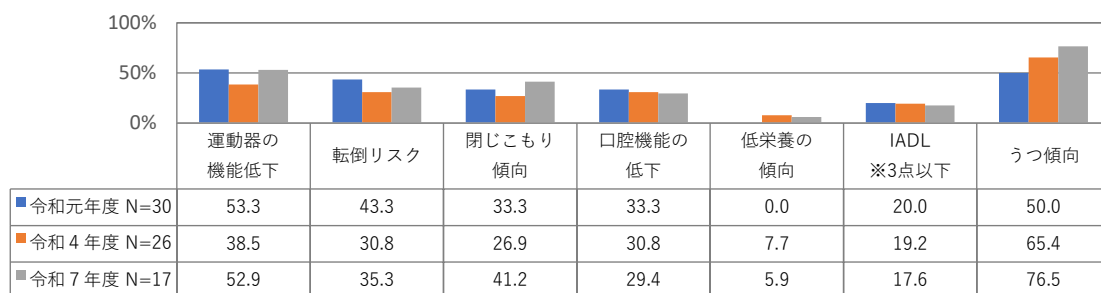


(北圏域)

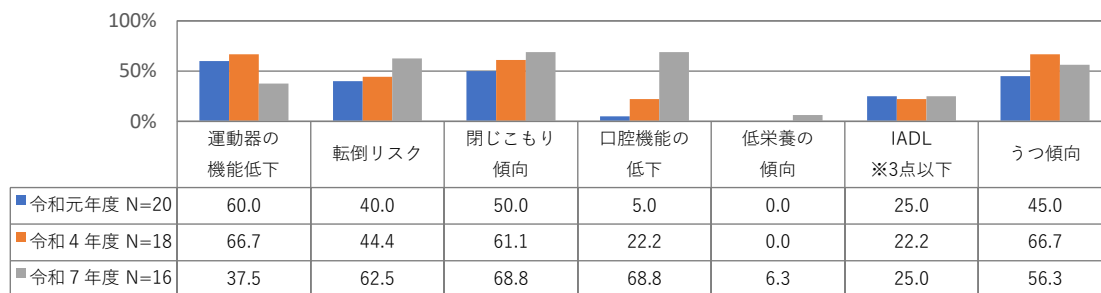


【要支援認定者】

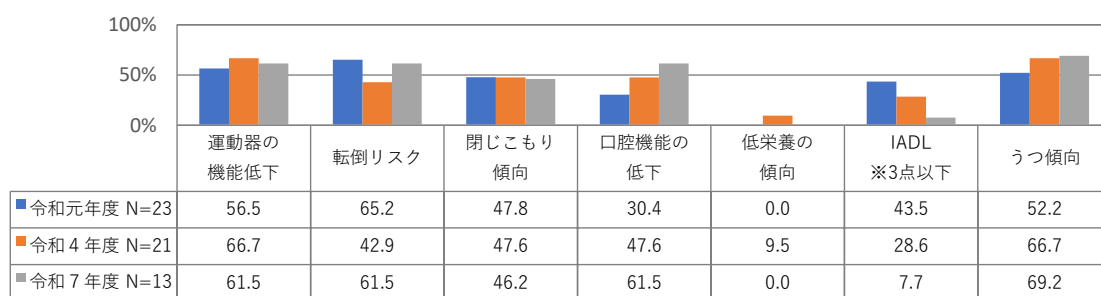
(中央圏域)



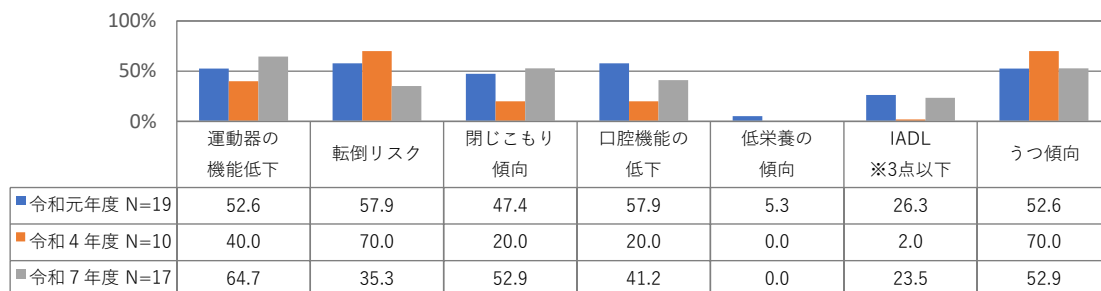
(東圏域)



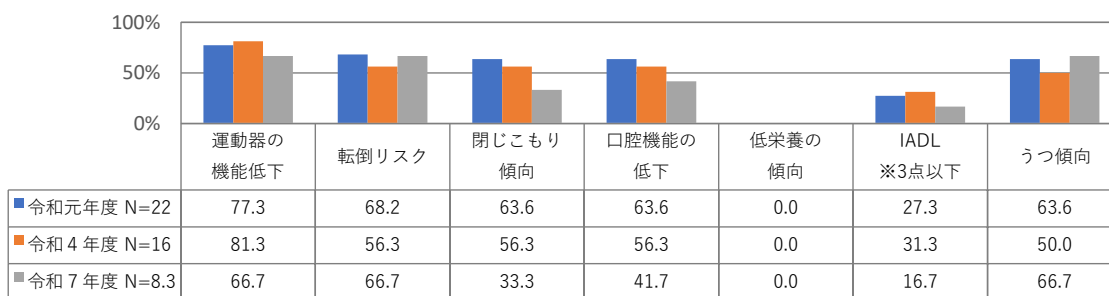
(西圏域)



(南圏域)



(北圏域)



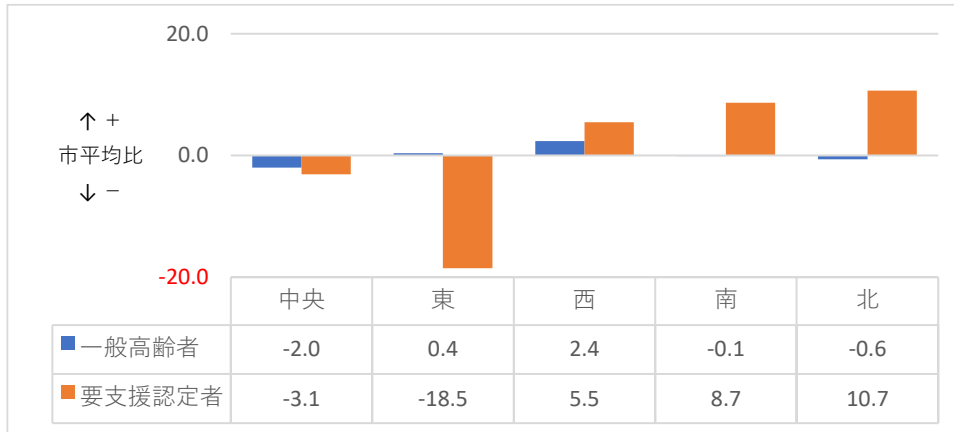
(3) 圏域別各リスクの状況

リスク毎に、それぞれの圏域でのリスク該当者の割合を市平均値と比較している。

①運動器の機能低下

一般高齢者では、東圏域、西圏域が市平均値を上回った。

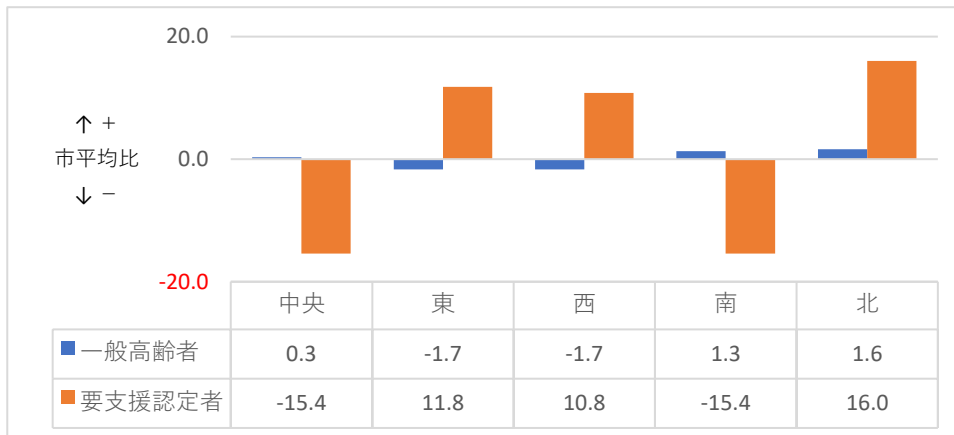
要支援認定者では、西圏域、南圏域、北圏域が市平均値を上回った。



②転倒リスク

一般高齢者では、中央圏域、南圏域、北圏域が市平均値を上回った。

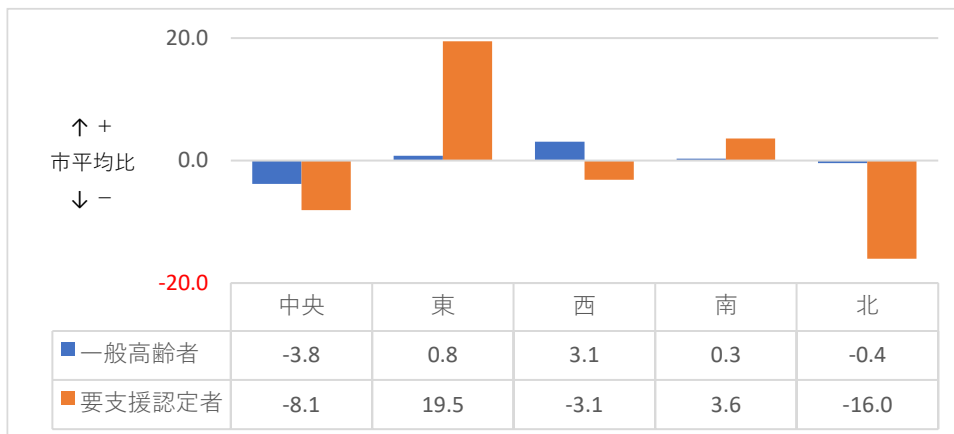
要支援認定者では、東圏域、西圏域、北圏域が市平均値を上回った。



③閉じこもり傾向

一般高齢者では、東圏域、西圏域、南圏域で市平均値を上回った。

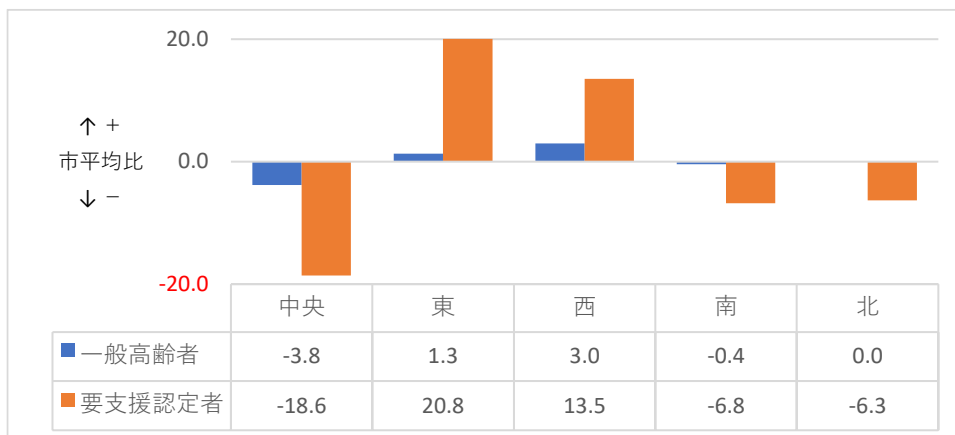
要支援認定者では、東圏域、南圏域で市平均値を上回った。



④口腔機能の低下

一般高齢者では、東圏域、西圏域が市平均値を上回った。

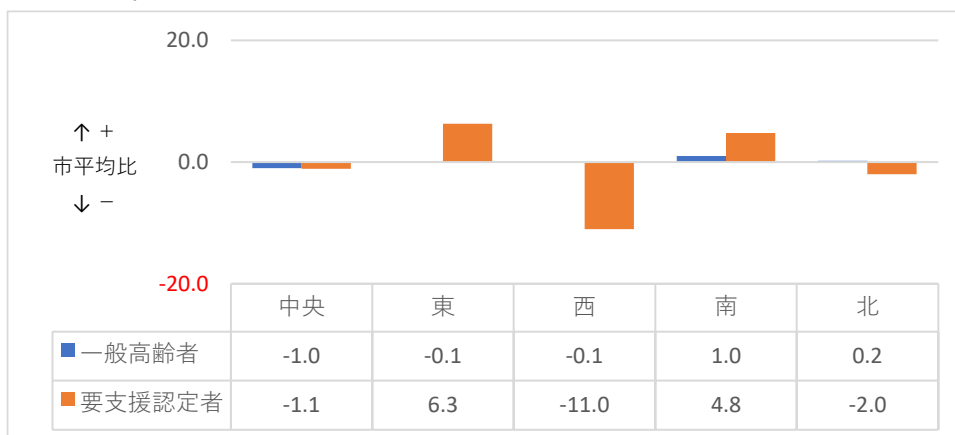
要支援認定者では、東圏域、西圏域が市平均値を上回った。



⑤低栄養の傾向

一般高齢者では、南圏域、北圏域が市平均値を上回った。

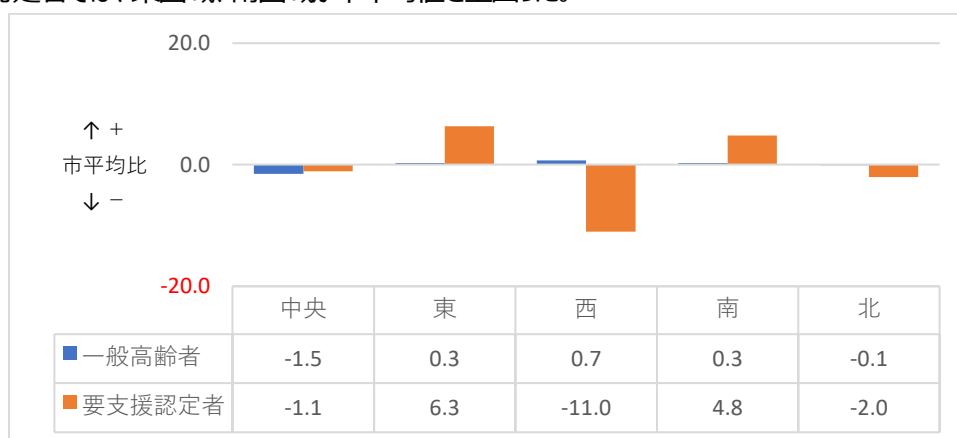
要支援認定者では、東圏域、南圏域が市平均値を上回った。



⑥手段的日常生活動作 (IADL) 尺度の低下

一般高齢者では、東圏域、西圏域、南圏域が市平均値を上回った。

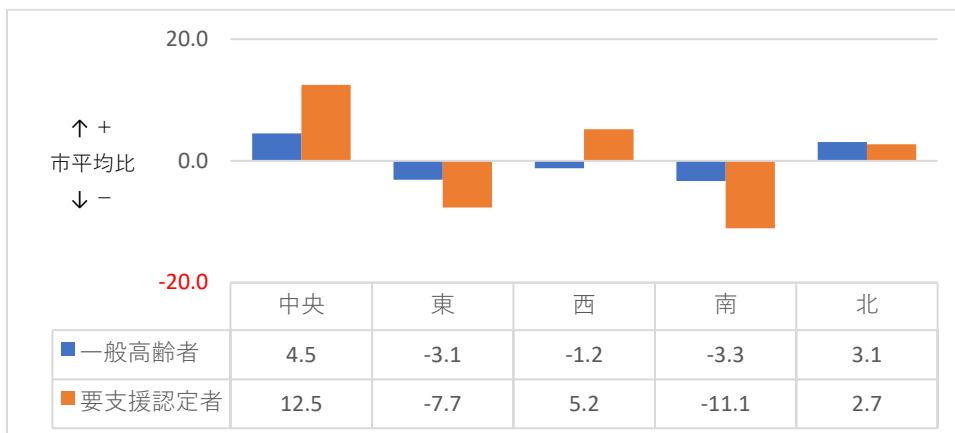
要支援認定者では、東圏域、南圏域が市平均値を上回った。



⑦うつ傾向

一般高齢者では、中央圏域、北圏域が市平均値を上回った。

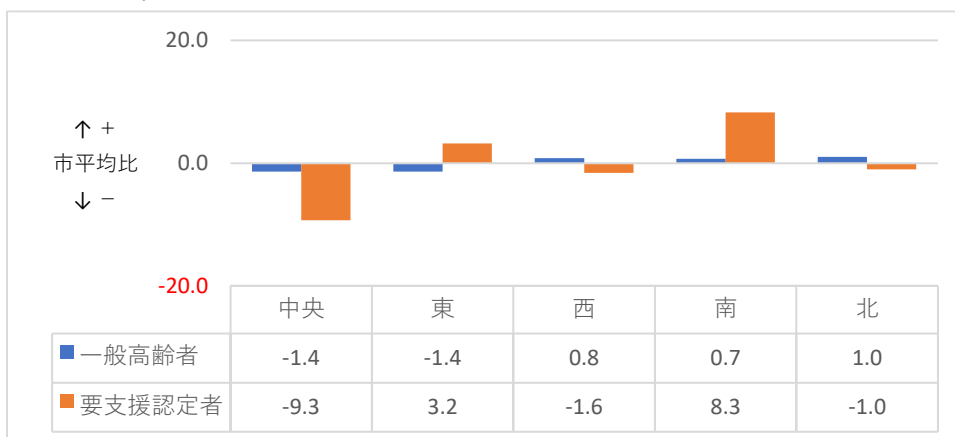
要支援認定者では、中央圏域、西圏域、北圏域が市平均値を上回った。



⑧認知機能の低下

一般高齢者では、西圏域、南圏域、北圏域が市平均値を上回った。

要支援認定者では、東圏域、南圏域が市平均値を上回った。



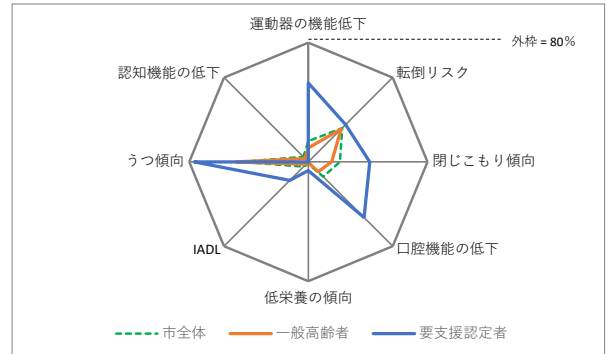
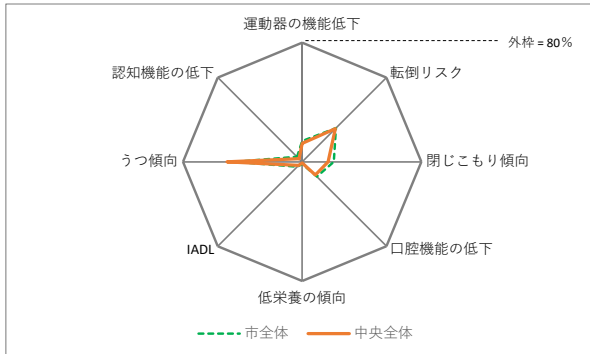
4. 圏域別リスク該当者割合

(中央圏域)

中央圏域全体は、市全体と大きな差はなかった。

一般高齢者は、市全体と比べて「運動器の機能低下」「閉じこもり傾向」「口腔機能の低下」が低かった。

要支援認定者は、「転倒リスク」「低栄養の傾向」「認知機能の低下」を除き、市全体よりかなり高かった。

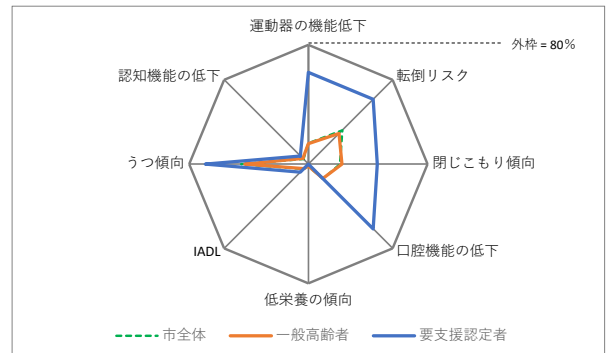
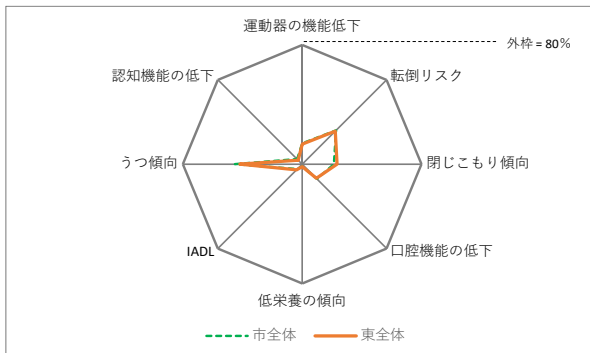


(東圏域)

東圏域全体は、市全体と大きな差はなかった。

一般高齢者は、市全体と大きな差はなかった。

要支援認定者は、「低栄養の傾向」「IADL」「認知機能の低下」を除き、市全体よりかなり高かった。

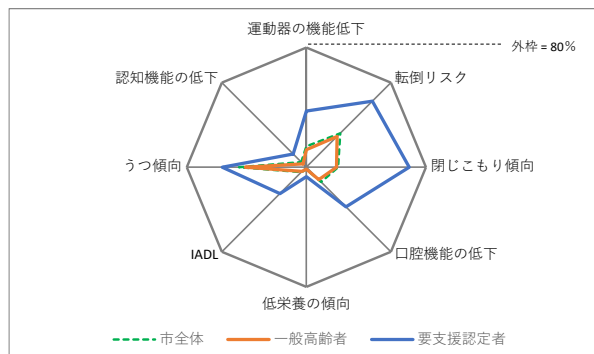
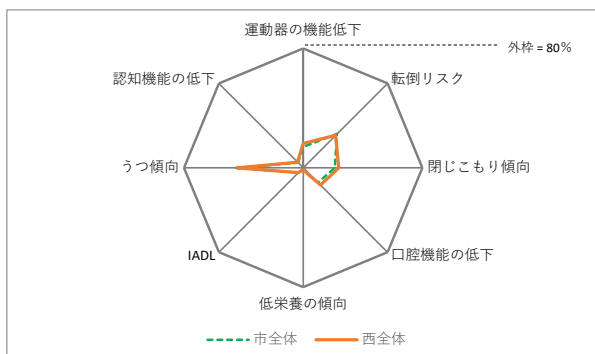


(西圏域)

西圏域全体は、市全体と大きな差はなかった。

一般高齢者は、市全体と大きな差はなかった。

要支援認定者は、「低栄養の傾向」「IADL」「認知機能の低下」を除き、市全体よりかなり高かった。

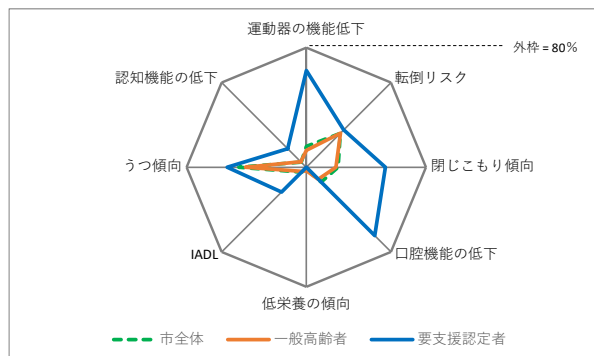
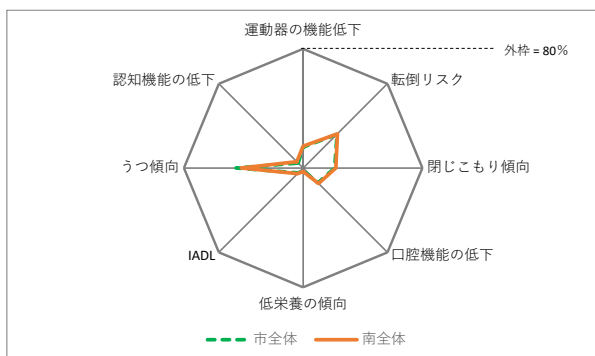


(南圏域)

南圏域全体は、市全体と大きな差はなかった。

一般高齢者は、市全体と大きな差はなかった。

要支援認定者は、「転倒リスク」「低栄養の傾向」「IADL」「うつ傾向」を除き、市全体よりかなり高かった。



(北圏域)

北圏域全体は、市全体と大きな差はなかった。

一般高齢者は、市全体と大きな差はなかった。

要支援認定者は、「低栄養の傾向」「認知機能の低下」を除き、市全体よりかなり高かった。

